



第4次 つくば市 生涯学習推進 基本計画

令和8年(2026年)3月

〔対象期間〕

令和8年度(2026年度)から

令和12年度(2030年度)まで

はじめに

「学ぶ」ことは、人生を彩る大きな喜びであり、未来を拓く鍵です。

つくば市では平成5年の生涯学習推進大綱策定以来、時代の変化に合わせて生涯学習の土壌を耕してきましたが、いま社会はかつてないスピードで変化しています。デジタル化による利便性の向上の一方で、リアルなつながりの希薄化や、多様化するライフスタイルの中で「本当の豊かさとは何か」が問われています。



だからこそ、第4次となる本計画では、単なる知識の習得を超えた「ウェルビーイング（持続的な幸福）」をその中心に据えました。

人生100年時代。学びは学校で終わるものではなく、一生を通じて自分をアップデートし、誰かとつながり、心を満たすための営みです。つくば市の未来構想の理念である「つながりを力に」や、教育大綱が目指す「一人ひとりの幸せ」も、この学びの循環なくしては実現しません。

「学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる 幸せのまちつくば」

これが、新しい計画の基本理念です。自分が楽しんで学んだことが、誰かの役に立ち、それがまちの活力として還ってくる。そんな「幸せな循環」が生まれる社会を目指し、誰もが自由に学べる環境づくりと、人と地域をつなぐ人材の育成に全力を注ぎます。

最後になりますが、この新しい道しるべを描くにあたり、熱意ある議論を重ねてくださった審議会の皆様、そして貴重な声を寄せてくださった市民の皆様に、心より感謝申し上げます。

学びでつながる新しいつくばを、ともに創っていきましょう。

令和8年（2026年）3月

つくば市長

A handwritten signature in black ink, written in a cursive style. The signature appears to be 'Shigeaki Kuroki' (黒木重明), the name of the Mayor of Tsukuba City.

目次

第1章 計画策定の趣旨

- 1-1 計画策定の目的 2
- 1-2 計画の位置づけ 4
- 1-3 計画の期間 4
- 1-4 計画策定に係る基本的な考え方 5

第2章 生涯学習推進をめぐる現況と課題

- 2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流 8
- 2-2 課題の整理 11

第3章 計画の基本的な考え方

- 3-1 基本理念 16
- 3-2 基本方針 17
- 3-3 基本目標 18
- 3-4 計画の体系 21

第4章 施策の展開

基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実	24
基本目標2 学びを支える環境の充実	26
基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進	28
基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進	30
基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出	32
つくばの学びの未来像	34
5人の「未来の物語」	36

第5章 計画の推進

5-1 計画の進行管理と推進体制	44
5-2 成果指標と目標の設定	45

資料編

1 計画策定に関連するデータ	48
資料 1-1 つくば市の人口等の状況	48
資料 1-2 つくば市の主な生涯学習関連施設の状況	51
資料 1-3 市民意向の動向	65
資料 1-4 第3次計画における取組状況	70
2 策定経過及び策定組織に関する資料	74
資料 2-1 計画策定の経過	74
資料 2-2 つくば市生涯学習審議会条例	76
資料 2-3 つくば市生涯学習審議会委員名簿	78

第1章

計画策定の趣旨

1-1 計画策定の目的

「人生100年時代^{*1}」、「超スマート社会(Society5.0)^{*2}」に向けた社会の大きな転換期の中で、生涯学習の重要性はより一層高まっています。

国においては、生涯学習環境の整備や多様な学習機会の提供、学習の成果が適切に評価され、それをいかして活動できる仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現に向けた取組が進められています。

また、第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(令和6年(2024年))では「ウェルビーイング^{*3}の実現のために、リスキリング^{*4}を含めたりカレント教育^{*5}や生涯学習を一層身近なものとして、主体的に学びをデザインし、いつでも学習にアクセスできる環境を整えることで、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続けることができる社会」を生涯学習の目指すべき姿としており、この方向性は、つくば市の生涯学習においても、留意すべき視点であり、今後の取組に反映させていくことが期待されています。

本市では、「つながる 広がる つくばの生涯学習」を基本理念に掲げ、「誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進」と「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」を基本方針とする「第3次つくば市生涯学習推進基本計画」(令和3年度(2021年度)～令和7年度(2025年度))(以下、「第3次計画」。)を策定し、生涯学習に関する施策を推進してきました。

この度、第3次計画が最終年度を迎えることから、これまでの取組を検証するとともに、市民ニーズや昨今の社会情勢の変化に対応した新たな「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」(以下、「第4次計画」。)を策定することとしました。

*1 人生100年時代：平均寿命や健康寿命の延伸により、人々が100年近く生きることを前提とした社会のこと

*2 超スマート社会(Society5.0)：政府が提唱する未来社会像で、サイバー空間と現実空間を高度に融合させ、AIやIoTなどを活用して経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」のこと

*3 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に満たされた状態で、短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義など持続的な幸せも含む概念のこと

*4 リスキリング：新しい職業に就くために、または今の職業で時代の変化によって生まれる新たな業務に必要なスキルを取得すること

*5 リカレント教育：学校教育から離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力や、社会の変化に対応して必要となるスキル・教養などを身につけること

◆生涯学習とは

- 生涯学習とは、一般的には人々が生涯にわたって行うあらゆる学習のことを指し、その成果が適切に評価される社会が「生涯学習社会」です。(平成30年度文部科学白書等に基づき整理)
- 教育基本法第3条の中で、生涯学習の理念は「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と規定されています。

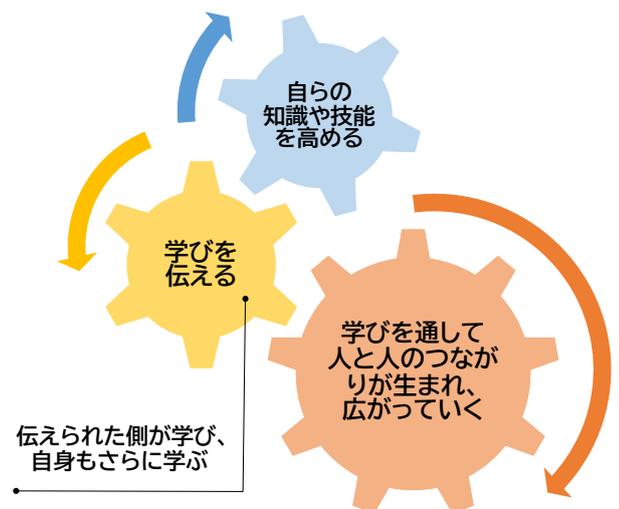
◆本計画における生涯学習（学び）の定義

- 日々の暮らしの中での体験や工夫、人との関わりの中にも、「学び」の機会が数多くあります。例えば、仕事や家庭で必要なスキルを学んだり、サークル活動やボランティア活動、地域のイベントに参加したり、仲間と一緒に新しい活動を立ち上げたりすることも生涯学習（学び）の一つです。スポーツをすること、楽器を演奏すること、絵を描くこと、スマホアプリや動画サイトで勉強することなど、身近な活動も生涯学習（学び）としてとらえます。
- また、本計画における「学び」とは、自らの知識や技能を高めるものや身近な活動に加え、学びを他者に伝えることにより伝えられた側が学び、学びを伝えた側自身もさらに学んでいくこと、さらに、学びを通して人と人のつながりが生まれ、広がっていくこと、また、学びが地域の課題解決に役立つことなども含めています。(学びの好循環)
- 子ども（青少年）の学びにおいては、学校外での多様な体験やふれあい等も「学び」として位置づけます。

■生涯学習のイメージ



■学びの好循環のイメージ

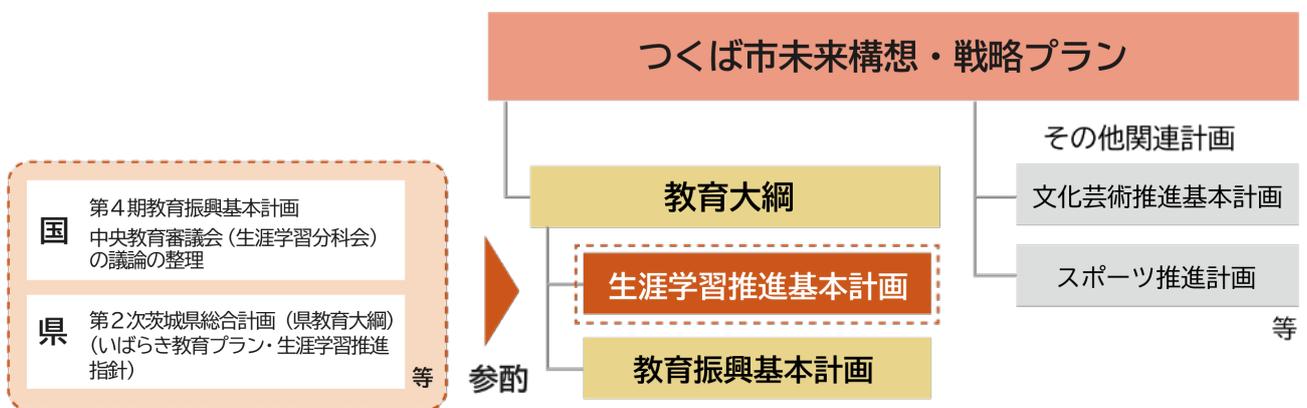


1-2 計画の位置づけ

本計画は、本市の最上位計画である「つくば市未来構想」、「戦略プラン」、（以下、「未来構想・戦略プラン」。）教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針である「つくば市教育大綱」（以下、「教育大綱」。）に基づき、生涯学習に関する施策を総合的に推進するための基本計画です。

策定にあたっては、国・県の生涯学習に関する計画や方針等を踏まえるとともに、本市の生涯学習に関連する各種計画等との整合を図ります。

なお、文化芸術及びスポーツ、生涯学習関連施設などの個別計画において詳細な方針を定めていることから、本計画では整合を図りつつ、生涯学習の観点から関連する取組を推進します。



1-3 計画の期間

本計画の期間は、令和8年度（2026年度）～令和12年度（2030年度）までの5年間となりますが、社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを図るものとします。

また、令和11年度（2029年度）には生涯学習に関する意識調査を実施し、本計画の評価及び第5次計画の策定の基礎資料とします。



1-4 計画策定に係る基本的な考え方

計画の策定においては、次のような考え方にに基づき、計画づくりを推進します。

◆計画の連続性と発展性をもった、上位関連計画と整合を図る計画づくり

- 生涯学習の成果をいかして、つながり、社会課題等の解決に取り組む人材（社会力*⁶を持った人材）を育成する第3次計画の理念を継承しながら、つくば市の「ウェルビーイング（幸せ）」の実現に向けて、よりその「つながり」が広がり・発展していく計画づくりを推進する
- 国・県の計画や方針等を参酌し新たな視点を盛り込むとともに、本市の最上位計画「未来構想・戦略プラン」と、本市の教育全般の指針「教育大綱」等との整合を図る

◆個別計画としてのオリジナリティを発揮する計画づくり

- 本市の生涯学習に係る基礎データを整理・分析するとともに、市民アンケートや市民ワークショップの結果を分析し、市民ニーズや現在の本市の課題等を明確にする
- 市民が共有できる基本理念と、計画の実現性を担保する施策や取組を位置づける
- 総花的ではなく、オリジナリティを持った計画づくりを目指すため、取組がどのように市民に届き、活動へつながっていくのかを示す「つくばの学びの未来像」を設定する
- 「生涯学習の成果をいかして地域や社会の課題に取り組む」視点を強化するとともに、身近なものから大きな社会課題に取り組むものまで、取組が評価される環境づくりを推進する
- 子どもの頃から生涯にわたり、自ら学び続けることへの意欲を育む環境づくりに資する計画づくりを推進する

◆市民参画を強化する計画づくり

- 一人ひとりの理想の「学び」の姿を深め、互いに理解し合うとともに、本市全体での理想の「学び」の姿を共有する機会となる市民ワークショップを通じた計画づくりを推進する

◆効果的な進行管理の実現と進捗状況の評価・検証に基づく計画づくり

- 計画の達成状況及び進捗状況の評価・検証し、計画推進上の課題を明確にする計画づくりを推進する
- PDCA（Plan：計画、Do：実行、Check：評価・検証、Action：改善）の在り方を位置づけ、効果的な進行管理ができる計画づくりを推進する

*6 社会力：他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、良い社会をつくらうとする力のこと

第2章

生涯学習推進をめぐる現況と課題

2-1 生涯学習を取り巻く社会潮流

(1) 国の動向

1) 第4期教育振興基本計画 [令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)]

国の「第4期教育振興基本計画」(以下、「第4期計画(国)」)は、教育振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るための計画であり、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の二つのコンセプトの両立を目指しています。今後5年間における16の教育政策の目標のうち、生涯学習関係の政策は「目標8 生涯学び、活躍できる環境整備」を中心に「目標7 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂^{*7}」、「目標9 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上」、「目標10 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」等に位置づけられています。

■目標8の基本施策

- 大学等と産業界の連携等によるリカレント教育の充実
- 働きながら学べる環境整備
- リカレント教育のための経済支援・情報提供
- 現代的・社会的課題に対応した学習
- 女性活躍に向けたリカレント教育の推進
- 高齢者の生涯学習の推進
- リカレント教育の成果の適切な評価・活用
- 生涯を通じた文化芸術活動の推進

2) 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理[令和6年(2024年)6月]

第12期生涯学習分科会では、第11期分科会までの議論をもとに、第4期計画(国)を踏まえ、生涯学び続ける社会の実現及びウェルビーイングの向上を目指し、全ての人のウェルビーイングを支える「学び」の在り方(今後の方向性)などについて、とりまとめが行われています。重点事項として、「社会人のリカレント教育」、「障害者の生涯学習」、「外国人の日本語の学習」、「社会教育人材」について議論されています。

■生涯学習・社会教育をめぐる状況と今後の方向性

● 生涯学習をめぐる状況と目指すべき姿	誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会
● デジタル社会への対応	誰一人取り残されない社会の実現、デジタルデバイドの解消
● 社会的包摂への対応	社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供する役割も担い、地域や社会へも貢献
● 生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方	地域コミュニティの基盤を支えるうえで、社会教育人材に大きな役割が期待
● 生涯学習を進める上で、各学校教育段階で目指すべきもの	初等中等教育：自らの学びに主体的に取り組む力、最適な学習方法を選択する自己調整力を育む 高等教育：学びを活かして社会を牽引できる人材を育成 リカレント教育：成果を社会に還元するための仕事と学びの好循環

(2) 県の動向

1) 第2次茨城県総合計画（いばらき教育プラン）〔令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）〕

「第2次茨城県総合計画」は県政運営の指針であり、当計画の教育に関する部分をもって「いばらき教育プラン」に代えることとしています。

当計画の基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けた4つの「チャレンジ」のうち、生涯学習分野については「チャレンジⅢ 新しい人財育成」を中心に、複数位置づけられています。

■チャレンジⅢ 「新しい人財育成」の政策（挑戦する政策）の内容

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ●政策11 次世代を担う「人財」 | ●政策14 学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ |
| ●政策12 魅力ある教育環境 | 茨城 |
| ●政策13 日本一、子どもを産み育てやすい県 | ●政策15 自分らしく輝ける社会 |

2) 茨城県生涯学習推進指針〔令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）〕

「第2次茨城県総合計画」を補完し、県の生涯学習の目指すべき方向性とその実現に向けた取組を示すものとして、「茨城県生涯学習推進指針」が策定されています。

生涯学習推進のテーマを「ひとづくり つながりづくり 地域づくりにチャレンジする生涯学習」とし、取り組むべき基本的方策を定め、更にテーマの「ひとづくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」ごとに重点的に取り組む施策の方向を設定しています。

■重点的に取り組む施策の方向

●ひとづくり	若者が高い創造意欲を持ち挑戦できる「アントレプレナーシップ ^{*8} の育成」
●つながりづくり	生涯にわたり主体的に学ぶとともに、学びを生かしたつながりづくりを目指した「リカレント教育の推進」
●地域づくり	社会的包摂の実現に向けて「現代的・地域課題解決のチャレンジ」を支援し、県民が主体的にかかわる体制づくりの支援

*7 社会的包摂：全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念のこと

*8 アントレプレナーシップ：起業家精神のこと。文部科学省では、「急激な社会環境の変化を受容し、新たな価値を生み出していく精神」ととらえ、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探求したりすることができる知識・能力・態度を身に付ける教育をアントレプレナーシップ教育と位置づけている

(3) 市の動向

1) つくば市未来構想・戦略プラン[令和2年度(2020年度)～令和32年度(2050年度)]

未来構想は、市の全分野のまちづくりの指針となる構想であり、令和32年度(2050年度)までを見据えた計画期間とし、中間目標として令和12年(2030年)の未来像を示しています。

「つながりを力に未来をつくる」をまちづくりの理念として掲げており、多様なコミュニティの中で、顔と顔が見えるつながりをつくり、挑戦が新たなまちの活力を生み出し、更なる好循環を生み出すことで、まちを持続的に発展させていく、という意味が込められています。

また、第3期戦略プランは、未来構想に掲げられた「まちづくりの理念」と「目指すまちの姿」及び「2030年の未来像」の実現に向けて令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度)の5年間の市の取組方針となる基本施策を定めたものです。

生涯学習については、戦略プランの基本施策Ⅱ-2「人生100年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる」に位置づけられており、今後5年間で取り組むこととして「生涯学習による市民生活の充実」が示されています。

2) つくば市教育大綱[令和7年度(2025年度)～令和11年度(2029年度)]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3の規定に基づき、教育、学術及び文化の振興に関する根本的な方針として教育大綱を令和2年(2020年)3月に策定し、令和7年(2025年)3月に改定を行いました。

教育大綱では、本市の教育が目指すものとして、最上位の目標に「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を掲げ、その実現に向けて二つの方向性が示されています。

教育大綱で示された考え方は、学校教育に限らず、社会教育も含めた生涯学習全般にわたって踏まえる必要があります。

■目標に基づく「二つの方向性」

- ① 一人ひとりが幸せな人生を送るために、各人の違いが受容されそれぞれが持っている多様で豊かな個性が花開く環境をつくる。
- ② 地域全体がその環境において一人ひとりの「善き生の実現能力」と、人と人がつながり、自主的に持続可能なより良い社会をつくるための「社会力」を育てる。

2-2 課題の整理

生涯学習をとりまく社会潮流や市の状況、市民意向や第3次計画の取組状況の結果を、次のとおり分類し、第3次計画の「施策の柱」ごとに課題を整理しました。

これらの課題を踏まえて、第4次計画の方向性を定めます。

- a：社会潮流（上位計画）等や市の状況（人口・施設利用状況等）からの留意事項
 b：市民意向（アンケート【市民・児童生徒】、ワークショップ【WS】）からの課題
 c：第3次計画の取組状況からの課題

※a～cの詳細データについては資料編を参照

(1) 多様な学びの実現

施策の方向性：施設の利便性向上/参加機会の拡充/生涯学習の相談・情報の提供

留意事項 a	<p>○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。(12期分科会)</p> <p>○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。(12期分科会)</p> <p>○国や県は共に、社会人の学び直し（リカレント教育）の重要性を示している。</p> <p>○施設等については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一定期間利用者数が減少したが、近年は回復傾向であり、引き続き安全に利用しやすい施設の管理が求められる。</p>
-----------	---



課題 b	<p>○現在、忙しくて時間がなく学んでいない方のうち、4割が「簡単にできる学習方法があったら」学習への意欲が向上すると回答しており、手段・手法の検討が必要。(市民)</p> <p>○ライフスタイル、アクセスの問題、定員が限定されていることなどから、参加したくてもできない状況であり、気軽に参加できるプログラムづくりが求められる。(WS)</p> <p>○世代ごとのニーズに合ったプログラムづくりが求められる。(市民・WS)</p> <p>○「学びの情報」については、普段は「広報つくば」で入手している方が5割以上で、「講座・イベント」、「施設の内容や方法」が求められていることから、より良い情報発信について工夫が必要。(市民)</p> <p>○情報へのアクセスの難しさ、情報の量や発信量が不足していると感じられており、世代に合わせた多様な媒体による情報発信と情報の見える化が求められる。(WS)</p> <p>○地域交流センター等の生涯学習関連施設の更なる活用・利便性向上と、身近な場所で学べる環境づくりが求められる。(WS)</p>
課題 c	<p>○「参加機会の拡充」の評価は安定し、順調に取り組まれているが、市民意見では簡単に学ぶツールや機会の拡充に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。</p> <p>○「生涯学習の相談・情報の提供」の評価は毎年向上し、順調に取り組まれているが、市民意見では情報発信に関するニーズは引き続き強く、工夫が求められる。</p>



- 世代や時代のニーズに合った講座の開催等、誰もが学び合い、幸せになれる環境づくりが求められています。
- 学びについての情報の一元化や、わかりやすい情報発信など手法の工夫が求められています。
- 新たに学びを始める方にとっても、これまで学んできた方が学びを継続していくためにも、既存施設の更なる活用と、身近な場所で学べる、集まれる環境づくりが求められています。

(2) 誰一人取り残さない生涯学習

施策の方向性：参加への障壁をなくす取組/主体的に活動に参加できる取組

留意事項 a	<p>○今後の方向性として、「社会的包摂への対応（社会的に制約のある方々の学習ニーズの把握、学びを提供）」が求められており、障害者や外国人の学習は重点の議論事項としてまとめられている。（12期分科会）</p> <p>○今後の方向性として、「デジタル社会への対応（誰一人取り残されない社会の実現）」が重要。（12期分科会）※再掲</p>
-----------	---



課題 b	<p>○市に力を入れてほしい取組については、「子育てにいかせる学習の機会をつくる」が最も多く、次いで「仕事にいかせる学習の機会をつくる」であり、子育て世代や働く世代が参加しやすい取組が求められる。（市民）</p> <p>○学校の授業以外で学びたいことがない児童生徒は約1割みられ、理由として「興味がない・面倒」「何を学びたいかわからない」を多く挙げている。また、学びたいことがあっても、気軽に参加できる機会に「参加したくない」児童生徒が約2割いる。こうしたことから、子どもの頃から主体的な学びのきっかけづくり、興味関心を持てるような取組が求められる。（児童生徒）</p> <p>○リタイア後の男性の生涯学習・社会参加や、病気等により活動に参加できないなど、参加へのハードルがある人が参加しやすい環境づくりが求められる。（WS）</p> <p>○市民意向から十分に汲み取りにくい障害者や外国人のニーズに対応する施策の計画への位置づけはつくば市生涯学習審議会での議論が必要。</p>
課題 c	<p>○成果目標「実際に学習活動に取り組んだ人の割合」の更なる増加を目指し、誰もが取り組みやすくなる環境づくりが重要。</p> <p>○「主体的に活動に参加できる取組」の評価は向上しており、「障害者スポーツ推進事業」や「男女共同参画啓発事業」が順調に取り組まれていることから、引き続き取組の充実により、誰一人取り残さない工夫が必要。</p>



- 参加への障壁をなくすという観点から、これまで参加が難しかった方々がより参加しやすく、かつ、誰もが主体的に活動できるような社会的包摂を促進する学びの機会を提供していく必要があります。

(3) 地域で学び合う生涯学習

施策の方向性：地域で学ぶきっかけ作り/地域で学びつづける仕組み作り

留意事項 a	<p>○今後の方向性として、「ウェルビーイングを目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」を目指すべき姿としている。(12期分科会) ※再掲</p> <p>○国においては、「仲間とつながりながら学ぶことができる環境整備を図る」と示している。</p> <p>○子どもを取り巻く課題や地域課題解決においては、地域と学校の連携・協働が重要。</p> <p>○県においては、「ひとづくり つながりづくり 地域づくりにチャレンジする生涯学習」を生涯学習推進のテーマに設定。</p> <p>○未来構想のまちづくりの理念「つながりを力に未来をつくる」。</p>
-----------	--



課題 b	<p>○「社会力」がいかされた地域になっているかは、「わからない」が5割が多いが、「どちらかと言えばなっていない」も約2割となっており、学びを地域へと広げていくことを意識した取組が求められる。また、大人世代への用語の認知度向上が期待される。(市民)</p> <p>○地域の人から「何かを教わったり、一緒に取り組んだことがない・わからない」児童生徒が約5割となっており、体験の機会の充実が求められる。(児童生徒)</p> <p>○知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は8割以上と多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については6割とやや少なくなっていることから、つながり・交流することでの体験や、機会の創出などきっかけ作りが重要。(市民)</p> <p>○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。(市民)</p> <p>○児童生徒が、今後地域の人から学びたいもの、教わりたいものについては「スポーツに関すること」や「伝統芸能・歴史文化に関すること」が人気であり、地域学校協働活動などとの連携強化が求められる。(児童生徒)</p> <p>○区会等の地域での交流機会の減少などから、人とのつながりが希薄化していると感じられており、時代やニーズに沿った様々な交流の機会が求められる。(WS)</p> <p>○歴史文化や自然環境など特色ある地域資源を活用した多様な活動や交流の機会が求められる。(WS)</p> <p>○子どもも大人も皆で互いに学び合える環境づくりが求められる。(WS)</p>
課題 c	<p>○成果目標「地域交流センターの利用者数」の増加の達成に向けた取組強化を図ることが求められるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した経緯を踏まえて、適切な指標であるか見直しが必要。</p> <p>○「地域で学ぶきっかけ作り」の評価が低下していることや、個別事業の評価が極端となっていることから、指標や事業内容の見直しが求められる。</p>



- 地域との交流機会など、人と人が出会い、つながりを広げる機会づくりが求められています。
- 子どもも大人も皆が楽しんで学び合える地域づくりが求められています。
- より地域が身近に感じられ、将来にわたり地域へ学びの成果を還元し、「より良い状態(幸せ)」が続いていくといった好循環を育むために、子どもの頃からの体験機会の創出などの地域と触れ合うきっかけづくりが求められています。

(4) 「社会力」を持った人材の育成

施策の方向性：実践できる人材の育成

留意事項 a	<p>○今後の方向性として、「生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方」について着目され、学習支援と共に様々な分野の地域課題の解決という点から、地域コミュニティの基盤を支える上で社会教育人材の役割が重要。(12期分科会)</p> <p>○高齢者の能力を発揮する機会の提供が求められる。</p> <p>○学習成果が適切に評価・活用される仕組みや学習成果の可視化が求められる。</p> <p>○市の人口は増加傾向であり、年齢3区分をみると国や県と比べて65歳以上人口は低いものの、今後も高齢化は進むため、高齢者が学び、能力を発揮できる仕組みづくりの構築や、生涯にわたる学びの在り方を考えていくことが必要。</p>
-----------	--



課題 b	<p>○現在学んだ成果のいかし方について、「自分の人生を豊かにしている」、「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっており、今後のまちづくりに役立てたいかについては「いいえ」が5割となっている。理由としても、自己の楽しみや自主学習のためが多いことから、地域・社会へ成果をいかすという考え方を啓発していくことが重要。(市民)</p> <p>○「社会力」の言葉の認知度は「知らない」が6割で、認知度向上の工夫が必要。(市民)</p> <p>○「社会力」を高めるアイデアとして、地域や世代間の「交流機会」の創出が求められている。(市民) ※再掲</p> <p>○つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと「思う」生徒が約8割（そう思うとどちらかと言えばそう思うの合計）で、より後押しするために、身近な地域の大人など、ロールモデルの創出や活躍等の可視化が重要。(児童生徒)</p> <p>○リタイア後の高齢者の活躍については場や仕組みの創出も必要だが、リタイア前からセカンドライフについて考える機会や支援が求められる。(WS)</p> <p>○大学や研究機関、企業、団体・ボランティア等資源が豊富であると考えられている一方、上手く活用がされていないと感じており、人材活用の仕組みづくりが求められる。(WS)</p> <p>○各世代の学んだ成果をいかすための発表の機会・環境づくりが重要。(サークル活動発表会、子どもの学びの成果発表会など) (WS)</p>
---------	---

課題 c	<p>○成果目標「自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合」の増加の達成に向けた取組強化が必要。</p> <p>○「実践できる人材の育成」の評価が毎年低下しており、より身近なコミュニティ活動を活性化するためにも取組の充実が求められる。</p> <p>○施策の柱に位置づく施策の方向性にばらつきがあり、精査が必要。(本柱では1つのみ。)</p>
---------	---



- 本市の多様な人材や資源を有効活用するための仕組みの構築が求められています。
- 学びの成果を地域や社会に広げていく（つながりによる好循環・社会力）という考え方を、子どもの頃から啓発していくことや、その成果をいかすための場づくりが求められています。

第3章

計画の基本的な考え方

3-1 基本理念

人生 100 年時代を迎え、長いライフステージを豊かに過ごすためには、誰もが生涯にわたり楽しく学び続け、幸せを実感できる環境づくりが重要になっています。そのため、社会的包摂を重視し、学びを通じて人々がつながり支え合う地域社会の実現や、デジタル技術を活用した社会人の学び直し・人材育成の促進が求められています。

本市は、高度な学術研究を担う研究・教育機関が集積する都市であり、豊かな歴史文化や自然環境、特色ある地域フィールドなど、多様な社会資源に恵まれています。これらを背景に、様々な生涯学習関連施策を進めてきた結果、市民の学びに対する意識は高まり、活動の裾野も広がっています。その一方で、こうした資源を十分に活用しきれていない面もあり、生涯学習情報の提供方法や、学習の場・機会へのアクセス、そして地域や人とのつながりの希薄化などの課題が残されています。また、世代ごとの学びのニーズに応じた取組や、成果を発表する場の充実も求められています。

さらに、個人の自己実現を目的とした学びは定着しつつあるものの、他者とのつながりや、学びの成果を地域社会にいかし、課題解決につなげる力、即ち「社会力」の発揮という側面においてはまだ十分とは言えない状況です。

こうした状況を踏まえ、第4次計画では、本市の未来構想の理念「つながりを力に未来をつくる」と、教育大綱の最上位目標「一人ひとりが幸せな人生を送ること」を基盤に、学びを通じて市民の幸せを追求すること、地域の中で世代等を超えて学びの成果がめぐり、好循環を生み出すことで、すべての人が生きがいを感じ、幸せになる持続可能なまちの実現を目指します。そのため、様々な人々が交流でき、誰もが学びを楽しむ機会・環境をつくるとともに、「社会力」を育て、いかす取組をより一層充実させていきます。

このような考えから、第4次計画の基本理念を

**学びを楽しみ 学びがめぐり 学びでつながる
幸せのまちつくば**

と設定します。

3-2 基本方針

基本理念の実現に向けて取り組む基本方針は、教育大綱において「つくば市の教育が目指すもの」として掲げた2つの方向性に対応するものとして、次のように定めます。

基本方針 1

誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

誰もが生涯学習（学び）を通して自分らしく生きることができる社会を目指し、市民が誰でもいつでもどこでも楽しく学ぶことができるよう、多様な機会や場の充実を図ります。

また、市民一人ひとりが学びを通して、より豊かな人生を実現できるよう、デジタルの活用や学びへのアクセス性の向上、学習内容の高度化、情報共有や発信、利用等、学びを支える環境の充実を図ります。

基本方針 2

地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

地域が「より良い状態（幸せ）」になるために、生涯学習（学び）を通じて、個人と地域がつながり、共に成長しながら「社会力」を育み、発揮していくことを目指し、まずは、「社会力」への理解を深め、その実践を後押しする機会の充実を図ります。

また、「社会力」をいかす場や機会を整え、「社会力」の源である人材を育成します。

さらに、それが持続可能な形で学びとつながりの好循環を生む仕組みづくりを推進します。



「社会力」とは、他者を積極的に理解し良い関係性をつくり、良い社会をつくろうとする力のことをいいます。

3-3 基本目標

本計画の推進に当たり、基本方針1と2に対応する5つの基本目標を定めます。

基本方針1 誰もが自分らしく楽しく学べる生涯学習の推進

基本目標1 誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、参加のしやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

誰もが参加できる生涯学習社会の実現に向け、これまで生涯学習に十分に取り組みなかった市民が、学びに取り組みやすくなるような取組を推進します。

そして、学びを通じて誰もが自分らしく幸せに生きるためには、多様なニーズに対応した取組が求められていることから、ライフステージや子どもから高齢者までの世代に応じた参加機会の拡充を図ります。

さらに、市民一人ひとりが自分らしい選択をしながら学ぶことができるよう、主体的な生涯学習活動を促進します。

■施策の方向性■

- ① 多様な学びの充実
- ② 参加機会の拡充
- ③ 主体的な学びの促進

基本目標2 学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

誰もが必要な学びの情報を適切に得られ、自らの関心やライフステージ等に応じた学びを選択できる環境づくりが求められていることから、幅広い学びの情報提供と相談体制の充実を図り、市民が学びにアクセスしやすい仕組みを整えます。

また、地域に身近な学びの場として、世代等を問わず誰もが安心して集える環境の充実や、既存施設の利便性向上を図り、学びを通じた交流促進と生涯にわたる学びの継続を支援します。

■施策の方向性■

- ① 学びの情報提供・相談体制の充実
- ② 市民が集う学びの場の充実

基本方針2 地域全体で「社会力」を育み、いかす生涯学習の推進

基本目標3 気づきとつながりを育む意識づくりの推進

「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏み出す市民の意識醸成を図ります。

生涯学習の成果をいかし、市民がいきいきと活躍する社会を構築していくためには、「社会力」の重要性に気づき、理解を深めることが大切です。地域とのつながりに目を向け、関わりを通じて学びを深めることが学びの成果を実践へとつなげる大切な一歩となります。そのため、気づきの機会を広げるよう、様々な機会と場を提供するとともに、市民が「社会力」を理解し、行動につなげていくための意識づくりを進めます。

■施策の方向性■

- ① 「社会力」への気づきを促す取組の充実
- ② 地域や地域とのつながりを知るための取組の充実

基本目標4 学びの成果をいかした活動の支援と人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の支援と人材育成に努めます。

市民の学びを地域での実践へとつなげ、地域全体で「社会力」を向上させるためには、多様な人材が活躍できる環境と、人材・地域資源を活用する仕組みづくりが重要です。そのため、学びの成果をいかした新たな挑戦を後押しするとともに、既に地域の課題解決に取り組む市民や団体の活動を積極的に支援します。あわせて、これらの活動を支える人材の育成や、「社会力」の概念を次世代に継承し、活動をけん引するロールモデル（活動のお手本となる市民）の育成等を図ります。

■施策の方向性■

- ① 学びの成果をいかした活動の支援・促進
- ② 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成

基本目標5 持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが発展・循環する仕組みづくりを進めます。

市民自らが地域や社会に学びの成果を還元し、「より良い状態（幸せ）」が続く好循環を育むためには、地域との連携や交流、人と人がつながる機会づくりが求められています。そのため、市内の各施設が「社会力」を基盤とした学びの拠点となるように支援するとともに、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクール*⁹も学びの拠点としてとらえた学びのネットワークの構築を図ります。

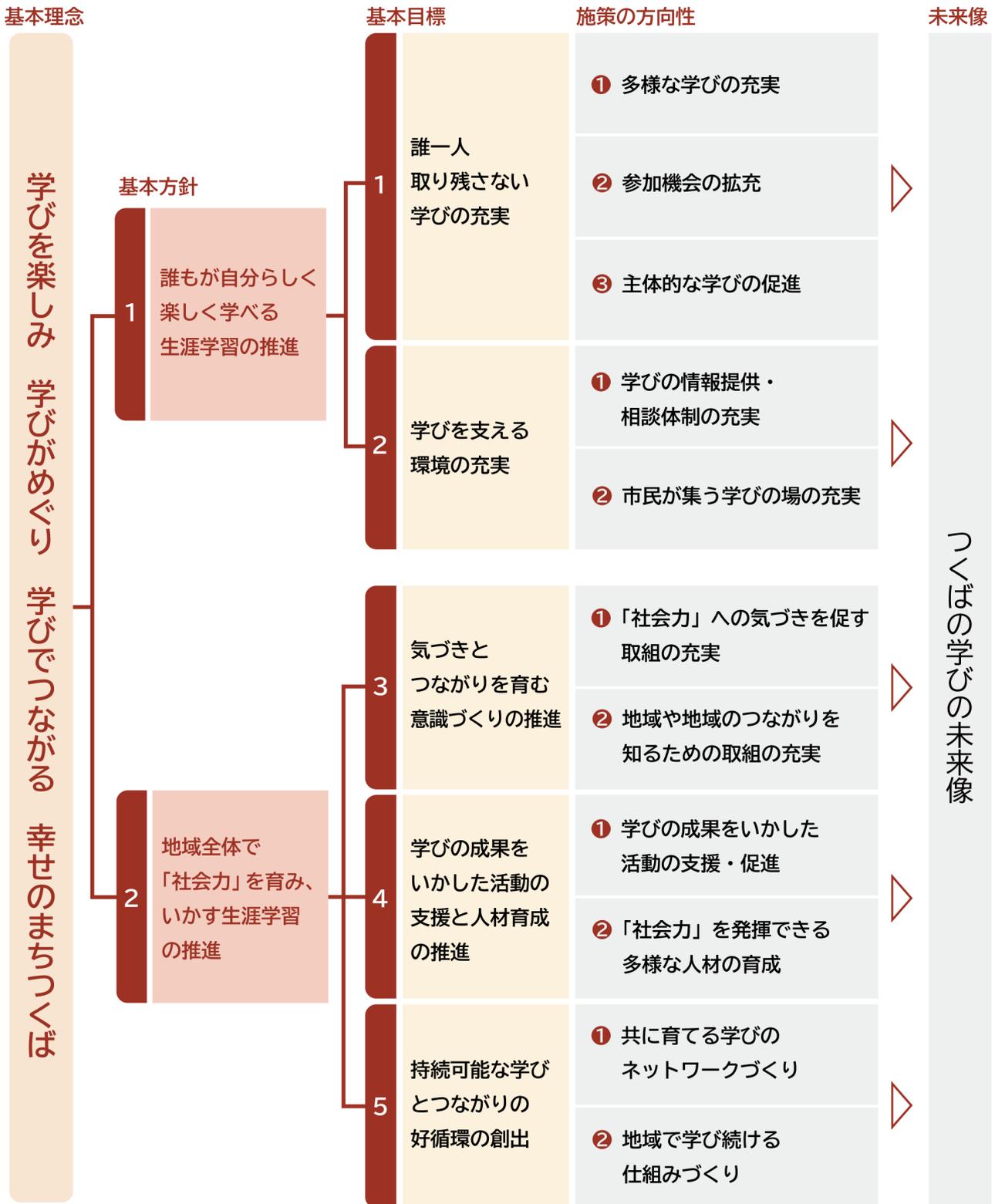
また、市民が新たなつながりを地域に広げていけるよう、様々な主体とのネットワークを通じて活動を後押しするとともに、その取組が持続的に発展するよう、学びのネットワークを活用して地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

■施策の方向性■

- ① 共に育てる学びのネットワークづくり
- ② 地域で学び続ける仕組みづくり

*9 コミュニティ・スクール：法に基づき学校運営協議会（保護者や地域住民などが委員）を設置している学校のこと。学校と保護者や地域の方々が共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映することで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組み

3-4 計画の体系



第4章 施策の展開

※主な取組について

(新) マークがついている取組は、第4次計画から新たに位置づけた取組となります。

基本目標1

誰一人取り残さない学びの充実

誰もが学びに出会い、自分らしく学び続けられるよう、
参加しやすさの確保と多様な学びの提供を進めます。

■ 施策の方向性

- ① 多様な学びの充実
- ② 参加機会の拡充
- ③ 主体的な学びの促進



障害者スポーツ講座
(卓球バレー体験)



乳児家庭教育学級「つくひな」
(絵本と子育て講座)



障害のある人もない人も一緒に楽しめる
イベントがあるのっていいね！

つくば市内の研究機関の講座に参加
できてとっても嬉しい！

施策の方向性① 多様な学びの充実

誰一人取り残さない学びの実現に向けて、これまで生涯学習に十分取り組むことが出来なかった市民（障害者や外国人、学びを始めるきっかけがなかった市民など）に対して、多様な学びの機会の充実を図ります。そのため、民間や教育機関など多様な主体との協働により、生涯学習活動（講座・セミナー・自主活動など）に係る支援を推進するとともに、学びに触れる機会を充実させることで、誰もが参加しやすい学習環境の整備に努めます。

主な取組

障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー事業、国際交流協会の支援、（新）生涯学習スタートアップ事業

施策の方向性② 参加機会の拡充

市民がいつでも気軽に学ぶことができるよう、生涯学習活動への参加機会の拡充を図ります。そのため、ライフステージ^{*10}や世代（子ども・若者世代や子育て世代、働く世代、リタイア直前の世代、高齢世代）などによる多様なニーズを把握し、内容、曜日や時間帯、開催場所や開催方法（オンライン開催等）などについて、様々な観点から検討します。また、民間等との連携を図り、柔軟かつ効果的に事業を見直し・提供を行います。さらに、講座開催時の託児サービスや手話通訳の提供など参加促進のための支援にも努めます。

主な取組

地域交流センター等の夜間・休日における学習機会の提供、オンラインによる講座開催、家庭教育学級の運営支援、（新）乳児家庭教育学級の開催、（新）幼児家庭教育学級の開催

施策の方向性③ 主体的な学びの促進

一人ひとりが自分らしく主体的に学び、自らの力を高めていけるよう、学習段階や関心に応じた学習機会を支援します。そのため、個人の楽しみや生きがいづくりに加えて、生活の質の向上や自己実現につながる学びを推進します。さらに、高度な学習ニーズやキャリア形成に対応するための高等教育機関・研究機関・企業と連携したりカレント教育やリスキリングなど、市民の主体的な学びを支える新たな取組を目指します。

主な取組

地域交流センター等での学級・講座の充実、スポーツ教室の充実、読書推進事業、つくば市域における図書館の連携、（新）生涯学習スタートアップ事業

*10 ライフステージ：人の一生を年齢や節目となる出来事（就職、結婚、出産、退職、介護など）で区切った段階のこと

基本目標2

学びを支える環境の充実

一人ひとりに合った学びにアクセスでき、
あらゆる世代の多様な人々が集い学べる環境を整えます。

■施策の方向性

- ① 学びの情報提供・相談体制の充実
- ② 市民が集う学びの場の充実



市民活動支援事業
(ボランティアフェスタ・子ども向けワークショップ)



おひさまサンサン生き生きまつり
(シルバーリハビリ体操)



子どもも大人も興味が湧く、
わかりやすい情報があるね！

イベントで楽しみながら
学ぶこともできるんだね！

施策の方向性① 学びの情報提供・相談体制の充実

市民が、自身の関心・ライフステージなどに応じた事業や地域団体の活動情報にアクセスしやすい環境づくりを進めます。そのため、情報の収集・整理を行うとともに、関係各課や団体と連携し、市広報紙や SNS など多様な媒体を活用した効果的な情報発信を行います。また、大学や企業等と連携し、市民が一元的に情報を得られる仕組みづくりを進めます。

さらに、新たに学び始めたい、活動をしたいと考える市民の参加促進・支援のため、関係各課や各施設と連携し、相談体制の充実を図ります。

主な取組

市民活動相談業務、SNS を活用した活動団体の広報、外国人向けイベント情報の発信、生涯学習指導者情報の提供、市職員向けの広報セミナーの実施

施策の方向性② 市民が集う学びの場の充実

世代や地域、障害の有無、国籍などを超えて多様な人々が集い、交流し、学び合える場づくりを支援します。

そのため、図書館や市民交流施設、スポーツ施設、学校の体育施設や特別教室の適切な整備と管理に努め、利便性の向上を図るとともに、今後検討する若者の居場所などを活用した事業を推進します。また、活動団体や企業等との連携により、身近な地域で集い、学び合える場の充実を目指します。

さらに、つくば科学フェスティバルや図書館による屋外イベントなど、市民が集い、学びを楽しむことができる機会を提供し、生涯にわたり学び続けられる場の充実を図ります。

主な取組

図書館利便性向上事業、市民交流施設利便性向上事業、学校施設開放事業、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり、つくばちびっ子博士、(新)つくば科学フェスティバル、(新)若者のための居場所の検討と創出、(新)読書環境の充実と集いの場の創出

基本目標3

気づきとつながりを育む意識づくりの推進

「社会力」への気づきを促し、ファーストステップを踏み出す
市民の意識醸成を図ります。

■施策の方向性

- ① 「社会力」への気づきを促す取組の充実
- ② 地域や地域のつながりを知るための取組の充実



「社会力」を持った人材の育成講座
(講座の集客アイデアとチラシ作り)



自然環境教育事業
(ホタル観察)



自分が学んだことを
誰かの役に立てたい！

自分が住んでいるつくば市の
ことももっと知りたいな。

施策の方向性① 「社会力」への気づきを促す取組の充実

市民が学びの成果をいかして、地域社会に貢献する環境づくりの第一歩として、他者を積極的に理解し良好な関係性を築き、より良い社会をつくろうとする力である「社会力」について、一層の理解促進と啓発を図ります。そのため、市広報紙や SNS などを通じて周知を行い、市民が気づきを得て理解を深められるよう推進します。

また、「社会力」人材育成事業などの各種講座や青少年の体験学習などの機会を提供し、自ら地域や社会に関心を持ち、主体的に関わろうとする意識の向上を図ります。

主な取組

つくば人間学講座、「社会力」を持った人材の育成講座、(新) 青少年体験学習事業

施策の方向性② 地域や地域のつながりを知るための取組の充実

地域や社会に主体的に関わり、学びの成果をいかすきっかけづくりとして、市民がつくば市や身近な地域への理解を深める機会の充実を図ります。そのため、多様な事業を通して、つくば市や地域の歴史・文化、自然環境、地域活動やボランティア活動、また多様な価値観などを知る機会と場を提供するとともに、地域と関わる機会の充実を図ります。あわせて、これらの取組を通じ、つくば市や地域に対する愛着や誇りを育みます。

主な取組

出前講座事業、多文化共生推進事業、文化財展示講座事業、筑波山地域ジオパーク体験学習・講座、つくばちびっ子博士、(新) つくば科学出前レクチャー、(新) つくば科学フェスティバル、(新) 青少年体験学習事業、(新) 自然環境教育事業、(新) ゼロカーボン教育・啓発事業

基本目標4

学びの成果をいかした活動の支援と 人材育成の推進

学びと実践をつなぐ仕組みを整え、活動する市民・団体の
支援と人材育成に努めます。

■ 施策の方向性

- ① 学びの成果をいかした活動の支援・促進
- ② 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成



文化財サポーターの育成
(ボランティアによる石仏調査)



青少年体験学習事業
(中高生が教える防災教室)



自分の学びの成果をいかした活動を
続けていきたい！

活動をもっと広げていくために、
仲間を増やしていきたいな！

施策の方向性① 学びの成果をいかした活動の支援・促進

地域の中で活躍する市民・団体の世代交代や活動の活性化を図り、楽しみながら持続的に学べるよう、適切な支援に努めます。

また、市民が学んだ成果をいかして、主体的に新たな活動に取り組んでいけるよう、文化団体やサークルなどの育成に努めます。

さらに、児童生徒や青少年、高齢者の活動支援を担う団体、ボランティア団体など地域貢献に取り組む団体への積極的な支援により、多様な団体が活躍できる体制の充実を図ります。

主な取組

高齢者生きがい活動支援事業、文化団体等育成支援事業、市民活動団体支援事業、(新) 青少年健全育成活動の支援、(新) つくば市民文化祭の開催

施策の方向性② 「社会力」を発揮できる多様な人材の育成

「社会力」の気づきによって、自ら学んだことを地域に還元したい、仲間と共に学びを通して地域に貢献したい、地域課題の解決につながる活動を始めたいなど、一人ひとりの市民の想いが実現できるよう、様々な機会と場を通して「社会力」を発揮できる人材を育成します。あわせて、ボランティアなど、地域づくりに貢献する人材の養成にも取り組みます。

また、次の世代の活動を担う若者が自身の将来の姿を具体的に描きながら活動に関われるよう、ロールモデル（活動のお手本となる市民）から学べる機会を増やします。特に次世代の活動をけん引するリーダーとなる人材の育成を積極的に推進します。

主な取組

生涯学習指導者情報提供事業、文化財サポーターの育成、地区リーダー勉強会の開催、市民活動支援事業、(新) 青少年体験学習事業

基本目標5

持続可能な学びとつながりの好循環の創出

学びの拠点とネットワークを活用し、市民の学びとつながりが
発展・循環する仕組みづくりを進めます。

■ 施策の方向性

- ① 共に育てる学びのネットワークづくり
- ② 地域で学び続ける仕組みづくり



コミュニティ・スクールの運営支援
(コミュニティ・スクール委員等研修会)



周辺市街地活性化協議会の運営支援
(大曾根・花畑・筑穂ギャラリーDAY)



地域の人とつながって、学び合える
関係を続けていきたい！

いろんな団体や組織の人と連携するこ
とで、活動を発展させていきたいな。

施策の方向性① 共に育てる学びのネットワークづくり

市内の各施設が、それぞれの立地や特性をいかしながら、地域の「学びの拠点」となるように、人と人がつながり地域で活動できるよう機会づくりを積極的に支援します。あわせて、「地域づくり」、「人づくり」を目指し、地域と学校が連携・協働して運営するコミュニティ・スクールも地域における「学びの拠点」ととらえ、拠点間の連携、情報の連携、人的交流を促進し、学びのネットワークを構築します。

主な取組

地域まちづくり支援事業、市民活動支援事業、地域交流センター等講座・学級の充実、(新)つくばSDGsパートナーズ事業、(新)コミュニティ・スクールの運営支援、(新)大学生・地域ボランティアによる学習支援活動

施策の方向性② 地域で学び続ける仕組みづくり

地域においては、市民が学びを通してつながる機会の充実を図るため、各施設やコミュニティ・スクールを中心に、学校・大学・研究機関・企業・各分野の団体・ボランティアなどとの連携と適切な機能分担を促進します。

特に市内の研究機関・企業との連携においては、本市の特性をいかした科学教育などの体験学習を通して学び続ける仕組みの充実につなげます。

そして、こうした多様な連携を継続的に発展させることで、市民の学びの広がりや多様な人との新たなつながりが世代等を超えて展開していくことを目指して、地域で学び続ける仕組みづくりを進めます。

主な取組

障害者や支援者を対象とした講座やイベント（障害者スポーツ講座、チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり）の開催、つくばちびっ子博士、(新)つくば科学出前レクチャー、(新)つくば科学フェスティバル、(新)コミュニティ・スクールの運営支援、(新)周辺市街地活性化協議会の運営支援

つくばの学びの未来像

本計画では「基本理念」を実現するために「基本方針」、「基本目標」を定め、「基本目標」を施策に落とし込んだ「施策の方向性」を位置づけています。

「施策の方向性」には「主な取組」を位置づけており、これにより市民の生涯学習活動を支援していく流れとなっています。

本市の5年後の未来に向けて、「主な取組」が市民に届き、それが市民の活動へとつながっていく様子と、そのイメージを未来の物語に乗せて示します。

「幸せのまちつくば」に向けて

基本理念に掲げる「幸せのまちつくば」は、生涯学習を通して、市民一人ひとりが学びたい、人とつながり共に学びたい、学びを地域に役立てたいという想いをかなえ、達成感や幸福感を得ることによって実現すると考えます。生涯学習活動している市民は誰もが実感する想いです。生涯学習の施策は、それを実現するためのものです。

一方、「生涯学習ってなんだろう?」、「自分には関係ない」という市民にとって、生涯学習は、幸せのまちには結び付かないでしょう。生涯学習の施策は、このような市民に取り組んでもらうためのものでもあります。

つくば市の生涯学習は、すべての市民に向けて扉を開き、一人ひとりの状況に応じて支援ができるように取り組んでいくものです。

施策を市民の活動につなげるには

生涯学習の施策をどのように市民の活動につなげるかが、市民の参加率を上げていく上でも、学習活動を深めていく上でも重要なポイントです。

市民は社会生活において、様々な立場や背景を持っていることから、求める生涯学習の取組も、一人ひとり違います。

市民がどのようなライフステージにあるか、どのようなライフコースを歩んでいるかというところからニーズを読み取り、施策と市民の活動をつなげていきます。

人生 100 年時代のライフコースの考え方

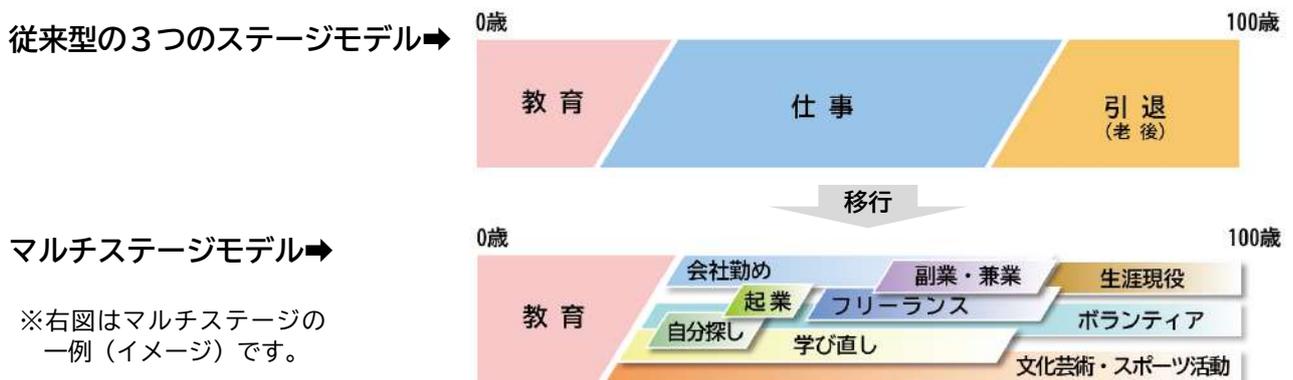
ライフステージとは、人が生まれてから死ぬまでの間に経験する、様々な段階のことです。それぞれのライフステージは、年齢や社会的な役割、生活環境の変化によって区分され、就職、結婚、出産、退職、介護などが節目になります。

ライフコースとは、個人がたどる人生の経歴や軌跡全体を指します。ライフステージは、このライフコースを構成する要素の一つです。本計画においてライフコースは、ライフステージの積み重ねのようなものととらえます。

この計画は、様々なライフステージに対応し、市民がライフコースを通して生涯学習に取り組もうとする「現時点」から5年後の未来に向けての主な取組を示しています。

市民一人ひとりの人生は、これまで取り組んできた過去の活動や学習、5年よりもっと先の未来への意欲をも含めて成り立っています。

また、人生 100 年時代にあって、市民のライフコースは、従来型の3つのステージモデルのライフコース「教育～仕事（労働）～引退（老後）」から、マルチステージモデルのライフコースへと移行していることも踏まえます。



本市では、マルチステージモデルのライフコースを想定し、この計画で推進する主な取組がどのように市民に活用されるかをシミュレーションしました。

5人の「未来の物語」

本計画では、様々なライフコースを生き、それぞれのライフステージにある市民の「未来の物語」をモデルとして設定し、本市で学んでいる姿を示します。

計画に示す主な取組をそれぞれの市民がどのように活用して生涯学習を実践しているか、「青少年」、「働く世代」、「子育て世代」、「障害者」、「高齢者」のそれぞれのステージにある市民の物語を通してみていきます。

また、一人の人生には様々な人々が関わっており、共に学ぶ仲間には、別の物語（ライフコース）があることも意識して、「未来の物語」を描きました。

— 5人の「未来の物語」 —

つくば市に住むとある5人それぞれが
学ぶことにより、人とつながり
自身の人生をいきいきと送る姿を描きました



みんながいて、なんでもできる学びの場所



高野さん（13歳） つくば市居住歴13年 生まれも育ちもつくば市で、現在は市内の中学校に通う中学1年生。両親もつくば市生まれつくば市育ちです。

あなたの学びのきっかけは？

小学校4年生の夏休み前のある日、家の近所の児童クラブで遊んでいたら、スタッフのお姉さんに「今度、科学教室やるんだけど参加してみない？」と誘われたのがきっかけです。ちょうど自由研究のテーマを探していたところだったので「いいことを聞いた♪」と思い参加しました。



どのような講座に参加しましたか？

日ごろ「なぜ？」と思っていることを科学で解き明かしてくれるような内容で、とても楽しかったです。あと、近所の知り合いのおじさんが教えに来てくれてびっくりしました！つくば市の研究所で働いている科学者だったなんて…！

科学講座への参加をきっかけに、他にも多くのイベントに参加しました。父と一緒に夏休みのつくばちびっ子博士で研究所や施設を見学したり、近所の人たちと一緒に餅つきをしたり、工作をしたり。学校の友達と遊ぶのとはまた違った楽しさがありました。



他にはどんなものに参加しましたか？

あるとき、新しくできた近所の友達と「地域みんなが楽しめる新しいお祭りをやりたいね」という話をしたのをきっかけに地域の人を巻き込んで近くの空き地を使った「まちのひろば」をつくることになりました。私たちが出したアイデアを近所の人たちが一緒に真剣に考えてくれて、まずは舞台を作ることになり、建物に詳しい市民活動団体の人たちも手伝いに来てくれました。みんなと一緒に竹を切り出し、加工して組み立てるのは楽しかったです。お店は趣味でお菓子や作品を作っている地域の人に協力してもらいました。また、地域の子どもの作品を展示したり、得意なことを発表したりできる会場にもなりました！

学んだことで何か変化したことは？

自分の周りには両親や学校の友達だけじゃなくいろいろな人がいて、自分一人では難しいことでも周りの人の知恵を借りればできないことはないんじゃないかと思うようになりました。

今は中学生になって部活や勉強で大変ですが、「まちのひろば」をより楽しく使うためのアイデアがたくさん浮かんでいきます。それを形にできるよう、またみんなと協力して楽しく頑張りたいです！



仕事のスキルアップをきっかけに広がった世界



横田さん（27歳） つくば市居住歴5年 大学卒業後の就職を機につくば市に。建築士として市内の企業に勤めています。現在は一人暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

勤めている会社のホームページ更新の担当が私になり、デザイナーの方とやり取りするに当たり基礎的な知識を学ぶために市の講座を受講したのが始まりでした。今後の自分のキャリアにもいきてくるかもしれませんし、良い機会だと思ったのです。どこで学ぼうかなと考えていた矢先、家の近くにある地域交流センターで市が運営する「学びのポータルサイト」のポスターが目に入りました。サイトを見てみると、欲しい情報にすぐにたどり着けるようになっており、まさに自分の求めていた講座に出会えました。



どのような講座に参加しましたか？

はじめは「初めてのウェブデザイン講習会」に参加しました。仕事終わりに行くことができたのが良かったですね。もちろんデザイナーさんとのやり取りでも役立ちました。これをきっかけにいろんな講座に参加し、今ではつくば市についてもっと知りたいと思うようになりました。つくば市は働く世代向けの講座が充実しているのにも驚きましたが、他にも多種多様な講座があり、会社の同僚にも勧めました。



他にはどんなものに参加しましたか？

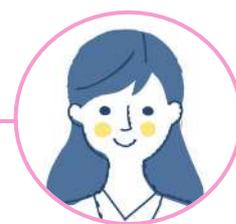
以前から自分のスキルや知識をいかして社会貢献できる場があればなあと思っており、ポータルサイトを見たところ、市内の古民家を研究している市民活動団体の存在を知りました。「これだ！」と思い参加してみると同業種の方も多く、すぐに馴染むことができました。他にも、市の職員さんや学校の先生など異なる分野の方々とも出会えたことは私にとって新鮮で、また市内の地域活動との交流の中で得た気づきが、結果として仕事にもいかされる場面があり、参加して本当に良かったと感じています。

学んだことで何か変化したことは？

以前は一人で過ごす時間が多く、たまに大学時代の友人と会うことがあってもくらいで交友関係が広がらなかったのですが、講座への参加や団体への入会をきっかけに市内の知り合いが増えました。あと図書館に行く機会も増えました。団体の活動の一環で図書館へ調べ物をしに行ったときに、「ライブラリーピクニック」なる取組があるのを知ったのですが、休日に公園の緑の下で読書をするのは気持ちいいですよ！



子育ての中で見つけた、わたしの“居場所づくり”



小林さん（46歳） つくば市居住歴36年 大学時代・新社会人時代は関西に居住。結婚を機に地元に戻りました。夫婦2人+子3人（幼児1、小学生2）の5人暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？



出産前は営業職、出産後は在宅で営業アシスタントをするように。子どもとの時間を大切にしたいと変えた働き方でしたが、人との関わりの少なさに徐々に寂しさを感じていました。そんな中、子どもの保育参観後に開催される「子育て中でもできる！地域参加のはじめかた（親子参加OK!）」の講座の案内が。地域に関わることは、自身の子どもたちにとっても、先生や保護者以外の人と触れ合える良い機会になるのでは？と思い参加しました。

参加した講座はどうでしたか？

講座は連続講座で、地域とつながるための方法や取組例の紹介、参加者の“ちょっと得意なこと”をどういかにするかを話し合ったり、地域交流センターで子ども食堂のお手伝い体験もしたりしました！講座会場は保育園以外に、学校の特別教室、近所のカフェを利用した時もありました。毎回色々なところに遊びに行くような感覚で、改めて地域を知る良い機会にもなりました。



地域にどのように関わることにしたのですか？

講座の参加者同士で交流を続けるなか、「自宅の空きスペースを活用して、多世代の学び合いの場をつくりたい！」という方の思いに賛同し、一緒に立ち上げに加わることにしました。私は仕事でのスキルをいかして仲間集めや行政相談などを担当し、他メンバーも、無理のない範囲で協力し合いました。立ち上げ作業が大詰めの際は、家事や育児を一緒にしている夫が、さらに頑張ってくれて、子どもたちもお手伝いで応援してくれました！つくば市では、家庭内でお互いの学びを応援する考えも育ってきているのが良いです。



実際にはどのような場所になっていますか？

誰もが気軽に集まれる居場所となっています。私の子どもも利用しており、年下のお世話をしたり、中高生や地域の大人に勉強を教わったりと、自然に社会と関わっています。運営にはシルバー人材の方や、ボランティアの方など様々な方が関わっています。私も週に一度お手伝いをしています。訪れる人との会話を楽しみつつ、地域の課題解決に向け、専門家を呼んで勉強会をしたり、地域の人と人をつなぐマッチングサービスについて学んだり、地域を良くする活動に取り組んでいます。



世界が広がるつくばの学び



田中さん（52歳） つくば市居住歴5年 市内企業勤務。夫婦2人+息子1人（高校3年生）の3人暮らし。

あなたの学びのきっかけは？

私には精神障害があります。夫の転勤を機につくば市に引っ越し、私も市内の企業へ転職しました。慣れない仕事に悩んでいたとき、同僚が「市の生涯学習講座がおすすめです！」と声をかけてくれたんです。障害の有無に関係なく自由に学べる環境と聞き、少し関心を持ちました。



どのような講座に参加しましたか？

私は人が多い場所が苦手なため、初めはオンラインで参加しました。参加してみると、字幕や手話通訳もありました。講座のテーマは「職場のコミュニケーション術」で、笑いも交えた講師の話が心に残りました。自分がわからなかったところはアーカイブ視聴で何度も見直せたのも良かったです。さらに、市では障害の種類や程度に沿った学びの場も設けていると聞き、安心感を持ちました。それで、今度は対面での講座に参加してみようと思ったんです。



他にもどんなものに参加しましたか？困ったことは？

国際交流セミナー、障害者スポーツ教室、自然体験会など、時にはオンライン、時には対面での講座に参加し、参加を重ねるほどいろんな人・知識に出会え、世界が広がっていきました！課題はハード面・ソフト面とありますが、サポートしてくれる人もいますし、何より参加者同士で助け合える雰囲気があるので、今では私も同じ障害のある人などに講座参加時のコツを教えるなど支える立場になることも増えました。



学んだことで何か変化したことは？

つくば市が大好きになり、市の魅力を伝えたいと思い個人的にSNSで発信していたら「あなたの地域について、もっと知りたい！」とインドの方からメッセージが届き、セミナーで出会ったインド人の友人の力を借りながら交流をはじめました。人が多い場所が苦手な私が、つくばの学びに参加したことで、多くの人と関わって、世界ともつながっているなんて！これからも、つくば市は、だれもが多くの選択肢を持ち、選び、成長できるまちなんだよ！ということ伝えていきたいです。



55歳の誕生日、人生が少し動き出した日



中村さん（70歳） つくば市居住歴35年 転勤を期につくば市に。研究職員として市内企業に勤めていました。現在は夫婦2人+犬1匹暮らしです。

あなたの学びのきっかけは？

人生の折り返し地点も過ぎた55歳の誕生日。我が子から「私たちばかりに構っていないで、そろそろお父さんも新しいこと、始めてみたら？」

そのひと言で自分のこれからについて考えるようになりました。

実はその少し前、お世話になった先輩が「定年退職後、やる事がなくて毎日が長い」と言っていたのを聞いたんです。長年、第一線で活躍してきた知識も経験も豊富な人が急に居場所をなくしてしまったみたいで…。

「自分も同じようになってしまうのでは？」そんな不安もあった中で、市のSNSで「セカンドライフを考えよう」という講座の案内を見つけたんです。家族も背中を押してくれたので、思い切って申し込んでみました！



参加した講座はどうでしたか？

仕事後に参加できる夜間の連続講座で、自分のこれまでの人生や得意なこと、価値観を振り返るワークから始まり、趣味の見つけ方や講座の紹介、地域との関わりについても学びました。

地域の人とはあいさつ程度の関係だったので、何か始めるなら、自分の経験がいかせて、さらに、地域の人と関わることがいいなと思うようになりました。



実際にはどんなことを始めたのですか？

研究職員として働いていた当時は、負担の少ない形で科学教室を行う地域団体のサポートメンバーとして関わることにしました。

地域の子どもや大人と一緒に楽しく実験に取り組む姿を見ると、自分の知識や経験が誰かの「わくわく」につながっている実感がありました。何とも言えないやりがいを感じ、先輩にも手伝ってもらいました。



その後、活動を続けてみていかがですか？

仕事を引退して時間ができた今は、団体の講師だけでなく市主催の講座の講師となったり、私のようにサポートとして手伝ってくれている人を次の講師となるように育てたりしているところです。

活動を通じて仲良くなった人たちとは、近所で一緒にお茶をしたり、山登りをするようになり、心身共に健康的な生活を送っています。思い切って一歩踏み出したことで、人生がより豊かになりました！

ちなみに、先輩も生涯学習活動への参加をきっかけに、生きがいを見つけたようです。今では目指せ120歳!とはりきっていますよ。

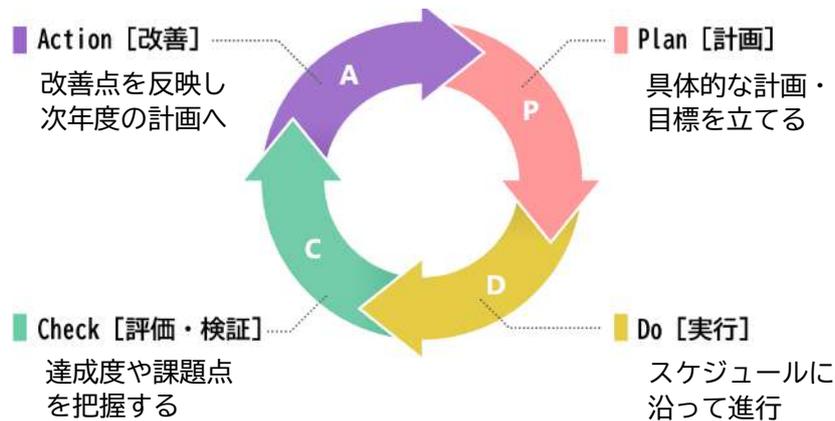


第5章 計画の推進

5-1 計画の進行管理と推進体制

(1) 計画の進行管理

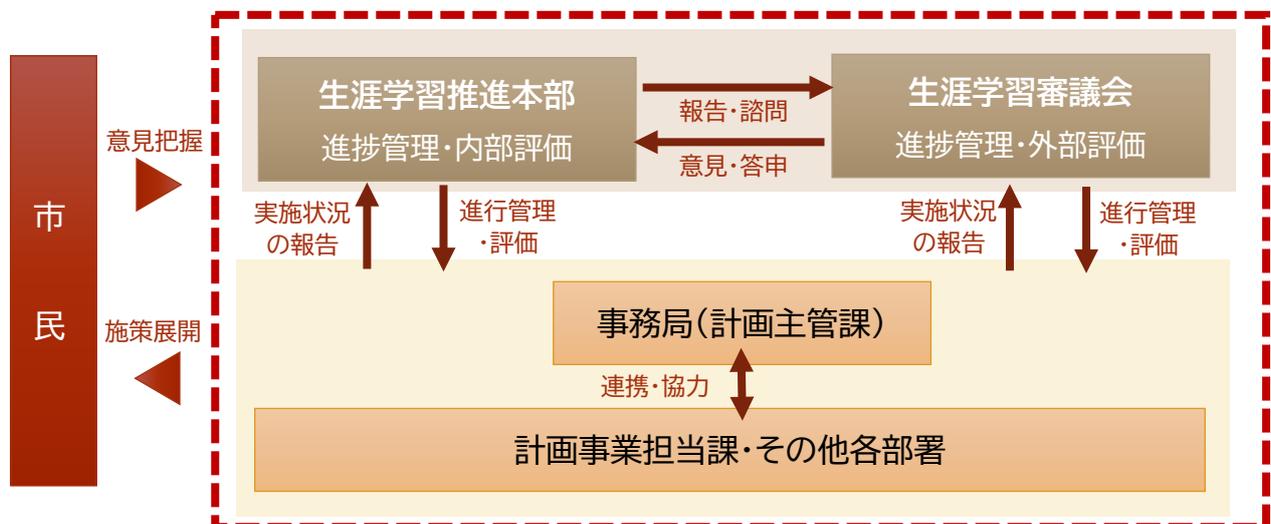
本計画では、第4次計画の基本理念を実現するために、基本目標ごとに位置づけている「施策の方向性」を毎年度評価・検証し、評価の結果をもとに、PDCA（Plan：計画、Do：実行、Check：評価・検証、Action：改善）サイクルによる進行管理を進めます。



(2) 計画の推進体制

本計画の推進体制は、各部長等で構成される「生涯学習推進本部」及び市議会議員、各種団体等の代表者、学識経験者、市民委員から構成される「生涯学習審議会」、そして両会議に実施状況の報告を行う事務局と関係各課で構成するものとします。

また、計画全般の進行管理や評価は、事務局及び関係各課からの実施状況の報告に基づき「生涯学習推進本部」において実施し、「生涯学習審議会」に報告・諮問します。「生涯学習審議会」は諮問を受けて審議を行い、今後の取組の改善にいかしていきます。



5-2 成果指標と目標の設定

計画全般にわたる成果指標は基本理念の実現に向けて、基本方針1及び基本方針2の趣旨に沿ったもの、また、計画全体の評価をはかるものとして、市民意識調査等から次のとおり設定しました。成果指標については、第4次計画の最終年度に評価・検証を行うものとしします。

成果指標		現況値 令和6年度 (2024年度)	目標値 令和11年度 (2029年度)
基本方針1			
1	生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	81.9%	85%
2	実際に取り組んだ人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	65.0%	85%
基本方針2			
3	自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	44.1%	50%
4	学びの成果を地域や社会での活動にいかしている (いかせる)人の割合 (生涯学習に関する市民意識アンケート)	13.8%	50%
5	地域や社会をよくするために何かしてみたいと 思う児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	79.5%	85%
6	地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組ん だことがある児童生徒の割合 (児童生徒WEBアンケート)	54.5%	60%
計画全体の評価			
7	市の政策のうち、生涯学習に満足／どちらかとい えば満足な人の割合 (つくば市民意識調査)	31.3%	50%

資料編

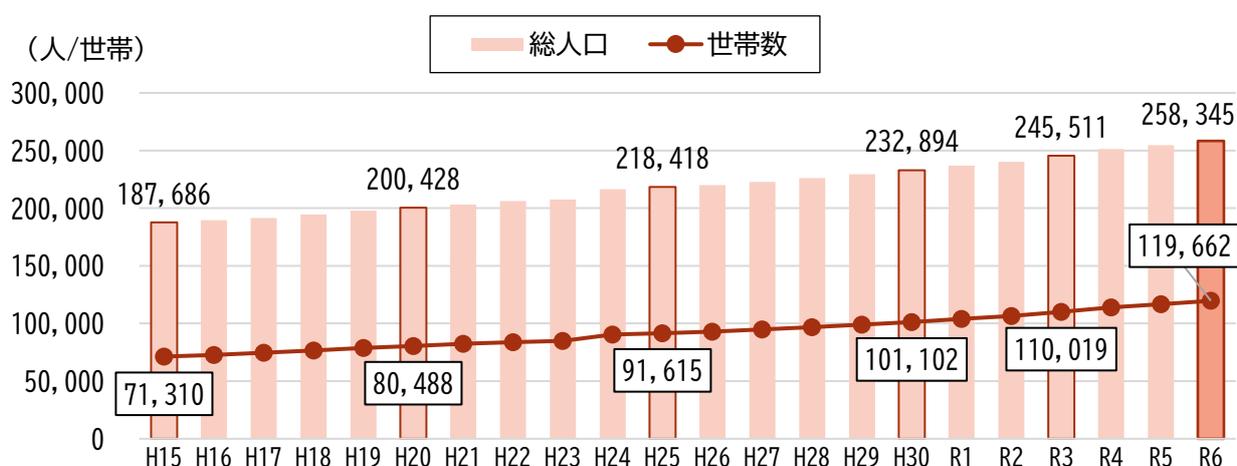
1 計画策定に関連するデータ

資料 1-1 つくば市の人口等の状況

(1) 人口等

本市の総人口及び世帯数は一貫して増加傾向にあります。令和6年(2024年)10月1日現在の住民基本台帳によると、人口 258,345 人・世帯数 119,662 となっており、第3次計画が始まった令和3年度(2021年度)の同月同日と比較すると 12,834 人・9,643 世帯の増加となっています。

■総人口・世帯数の推移 (各年10月1日現在)

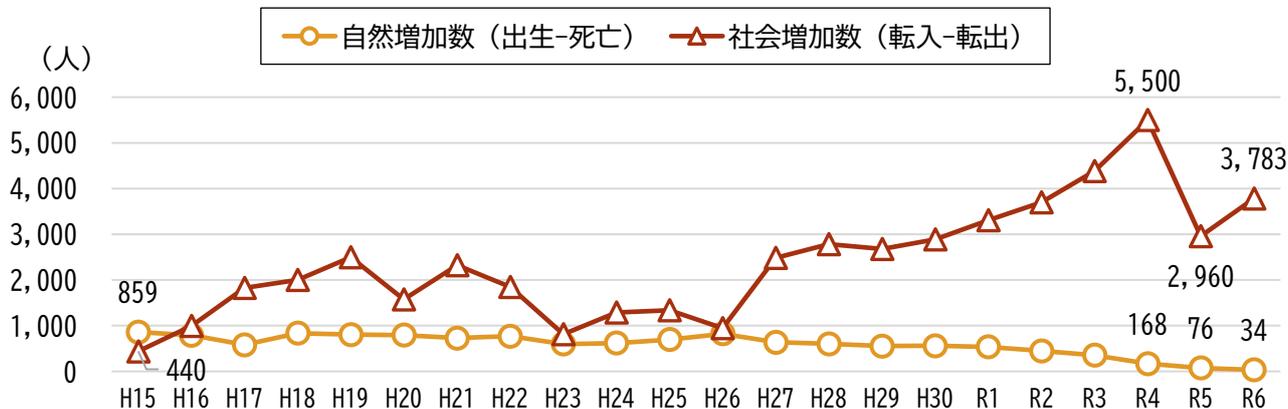


資料：『統計つくば』及び令和6年度行政区別人口表（つくば市）
 ※住民基本台帳人口は、平成24年8月以降の資料には外国人住民を含む。

(2) 人口動態

人口動態をみると、自然増加数は減少傾向にあります。社会増加数は平成27年(2015年)以降著しく増加傾向にありましたが、令和4年(2022年)から令和5年(2023年)にかけて大幅に減少し、令和6年(2024年)に再び増加しています。

■人口動態 (各年1月1日～12月31日 累計)

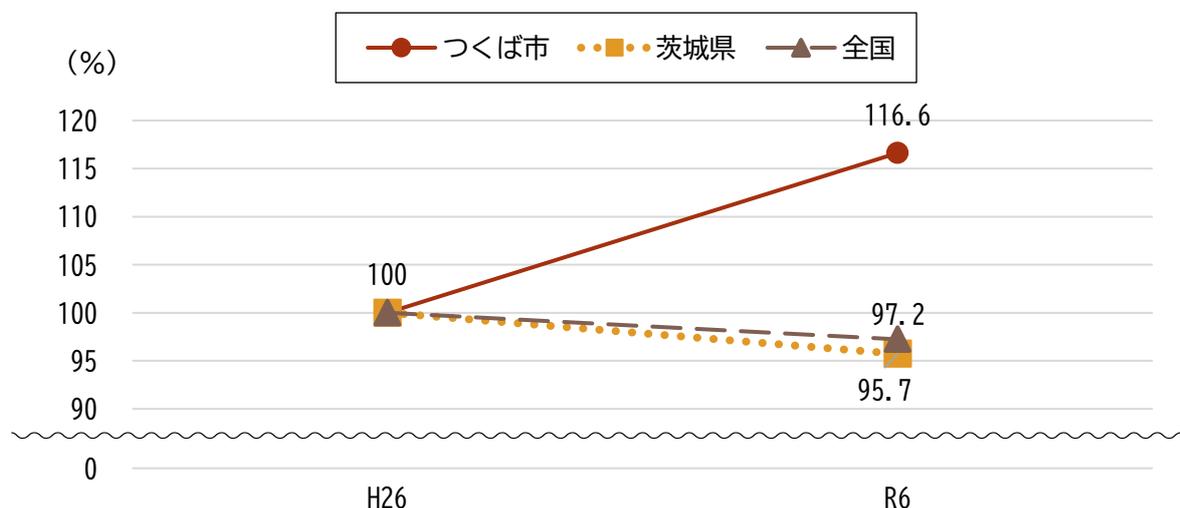


資料：『統計つくば』

(3) 人口推移の比較（全国・茨城県）

平成26年(2014年)を100とした場合の令和6年(2024年)の人口を茨城県や全国と比較すると、県や国がやや減少しているのに対して、本市は増加が目立っています。

■人口推移の比較（平成26年(2014年)=100）各年1月1日現在

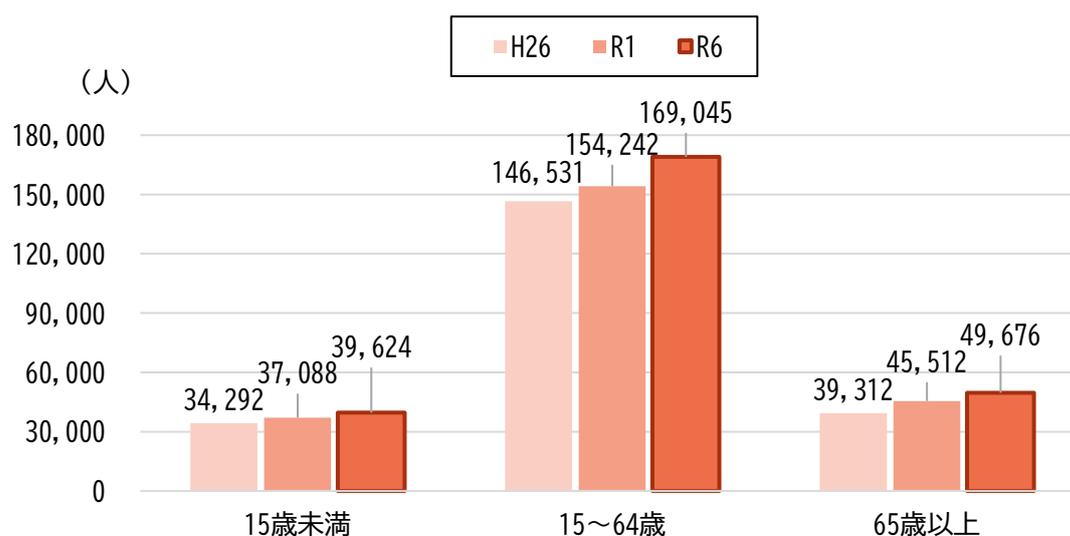


資料：住民基本台帳人口データ（平成26年1月1日、令和6年1月1日）

(4) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別人口の推移をみると、本市の人口はどの区分も増加しています。

■つくば市の年齢3区分別人口の推移

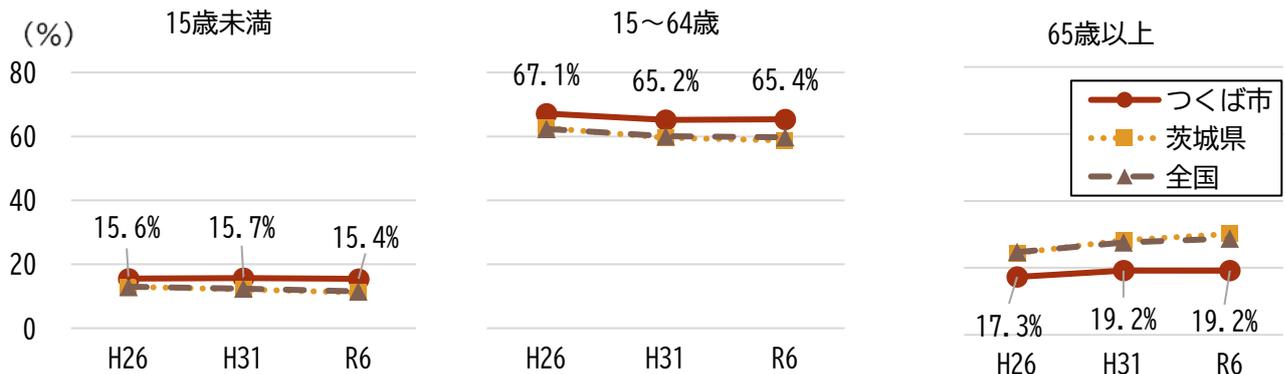


資料：行政区別年齢別人口表<つくば市>（各年10月1日現在）

(5) 年齢3区分別人口比率の推移（全国・茨城県）

年齢3区分別の人口比率を全国や茨城県と比較すると、本市の15歳未満及び15～64歳は国や県よりもやや多く、65歳以上は少なくなっています。推移をみると、本市の15歳未満は横ばい、15～64歳は減少からの横ばい、65歳以上は増加からの横ばいとなっており、国や県と比べて高齢化率は低くなっています。

■年齢3区分別人口比率の経年比較



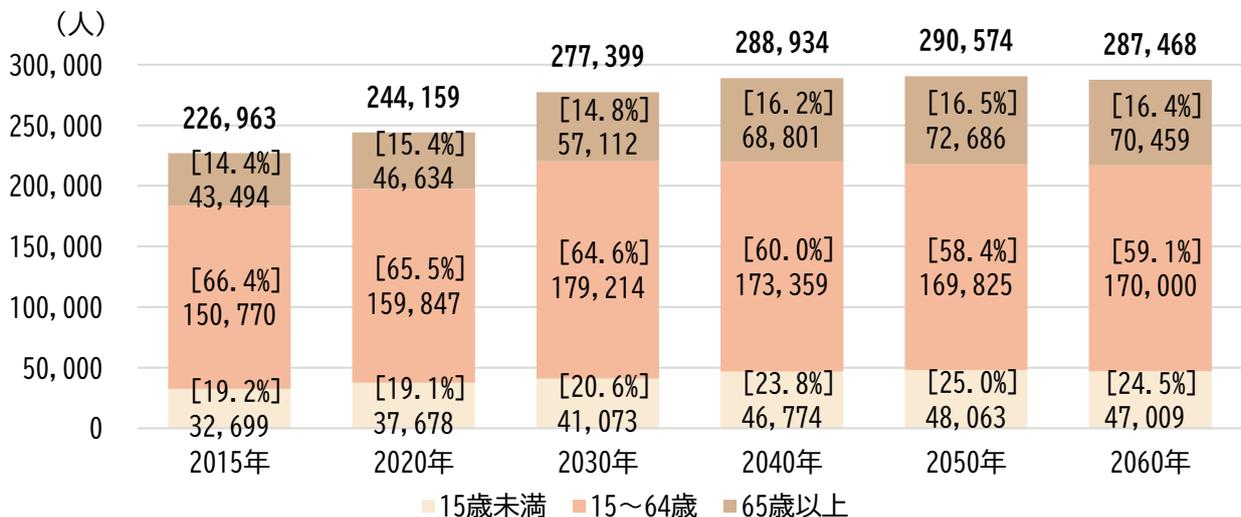
資料：住民基本台帳人口データ（各年1月1日現在）

※比率は小数点第二以下を四捨五入したものです。

(6) 将来人口

「未来構想（2020年3月）」における将来推計人口によると、本市の人口は、令和30年（2048年）ごろの約29万人をピークに、その後は緩やかに減少に転じると想定されています。年齢3区分別の人口比率は、ピーク時までは65歳以上の比率が増加すると推計されています。

■将来人口の推計及び構成



資料：政策イノベーション部企画経営課

資料 1-2 つくば市の主な生涯学習関連施設の状況

(1) 地域交流センター

本市の地域住民の社会教育を担う施設として、各地区で公民館が整備され、各種講座や学級、図書貸出などが行われてきました。その後、平成 22 年(2010 年)12 月策定の「つくば市地域交流センター基本計画」により、公民館の在り方を見直し、市民にとってより利便性の高い生涯学習施設となるよう、「地域交流センター」として運営体制を変更しました。令和 7 年度(2025 年度) 現在では 16 か所の地域交流センターを設置しており、市民の様々な活動のための利用がなされています。

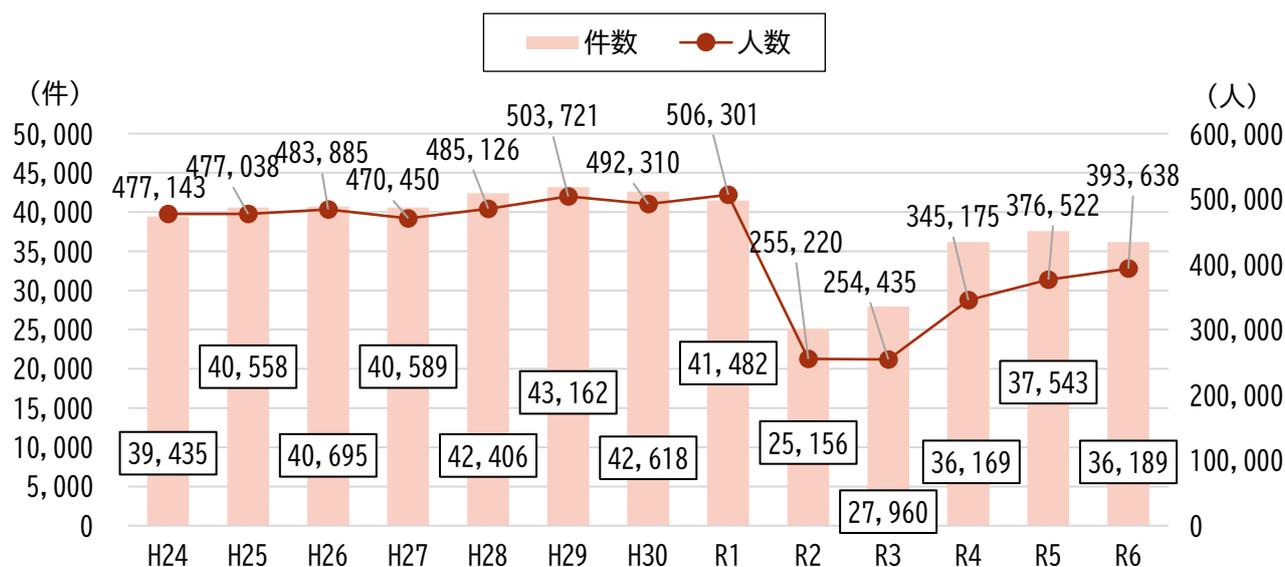
【利用状況】

利用状況を見ると、概ね 4 万件(利用者は概ね 50 万人台)の利用で推移しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一時利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。コロナ以前の令和元年度(2019 年度)と令和 6 年度(2024 年度)を比較すると、利用件数では約 9 割、利用人数では約 8 割まで回復しています。

各施設の利用件数の推移をみると、令和 6 年度(2024 年度)では多くの施設がコロナ以前の令和元年度(2019 年度)の 8 割以上まで回復しており、栗原交流センターではコロナ以前の利用件数を大幅に超えています。

一方、筑波交流センターでは他の施設と比べると回復率がやや低く、令和 6 年度(2024 年度)では 5 割程度に留まっています。

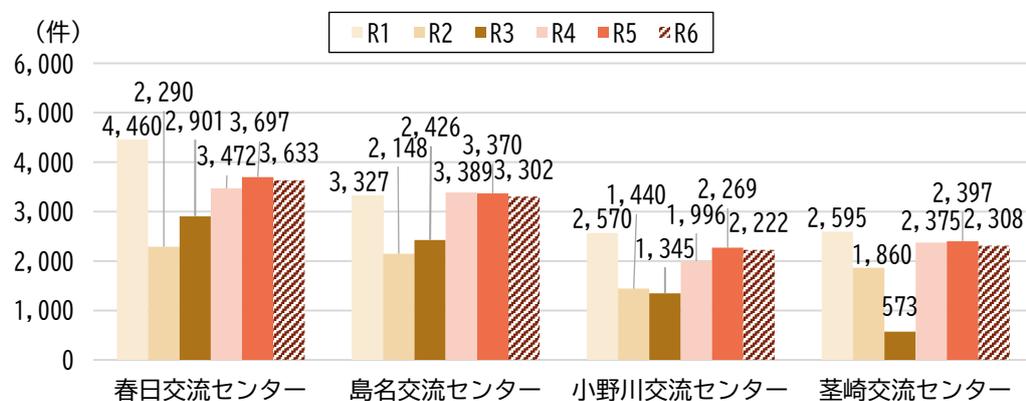
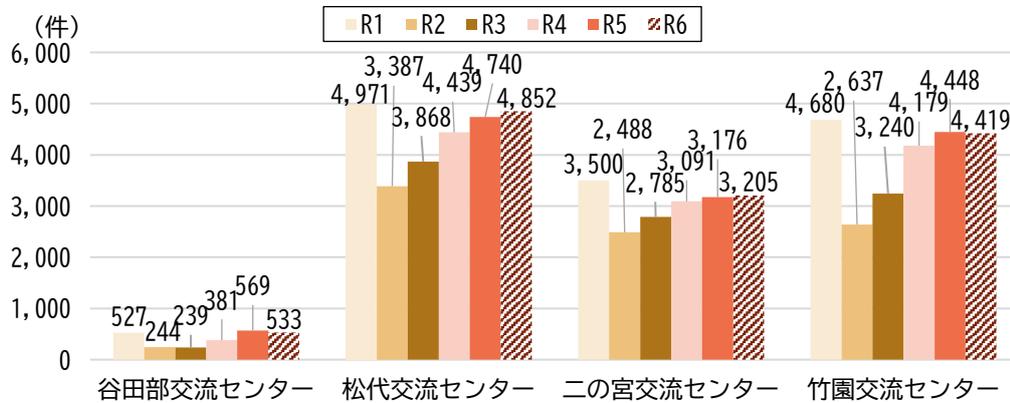
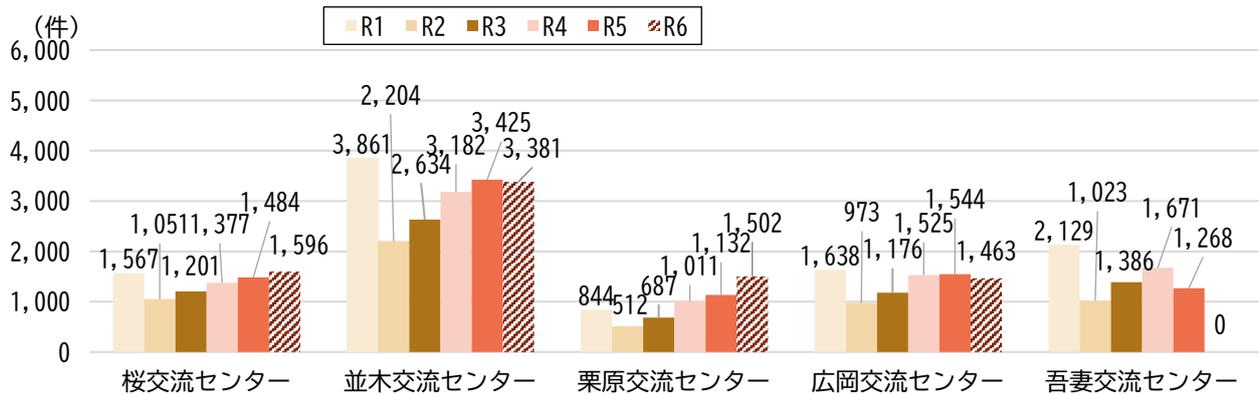
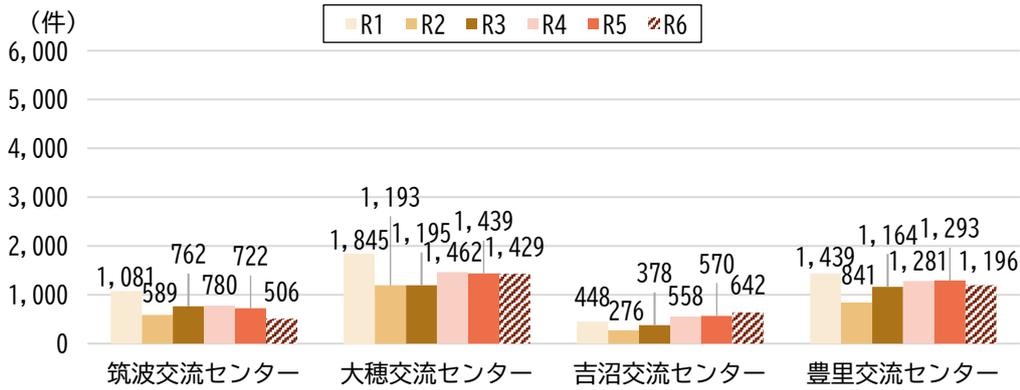
■地域交流センターの利用状況(各センターの合計)



資料：『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和 5 年 12 月末をもって閉館のため、令和 6 年からは含まない。

■地域交流センターの利用件数の推移（施設別）



資料：『統計つくば 2024』

※吾妻交流センターは令和5年12月末をもって閉館のため、令和6年からは含まない。

(2) ホール（ノバホール・つくばカピオ・市民ホール・アルスホール）

本市の文化芸術の振興を目的として、1,000席の大ホールを有するノバホール、アリーナ等の多目的な利用に対応したつくばカピオ、その他、市民ホールを4か所設置しています。また、中央図書館があるつくば文化会館アルス内には、100名規模のアルスホールも有しており、幅広い市民のニーズにこたえています。

【利用状況】

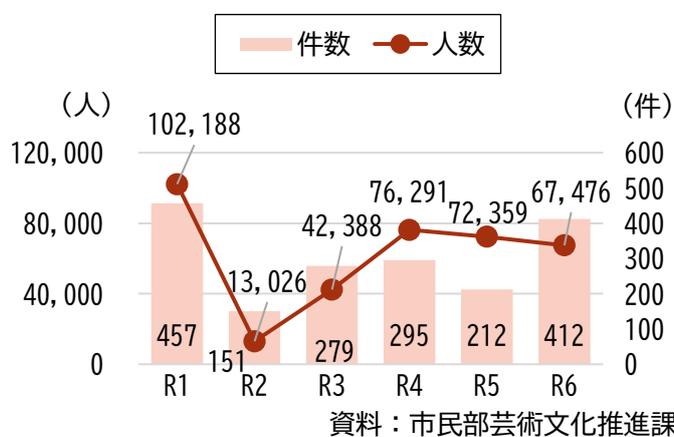
利用件数・利用人数共に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年度（2020年度）に利用が減少しましたが、近年は徐々に回復傾向にあります。

コロナ以前の令和元年度（2019年度）と令和6年度（2024年度）を比較すると、ノバホールについては、利用件数は約9割まで回復していますが、利用人数は令和5年度（2023年度）から再び減少し、約7割程度となっています。

つくばカピオと市民ホールでは、利用件数はコロナ以前を超えており、利用人数についても約8割以上回復しています。アルスホールでは利用件数が近年増加傾向にありましたが、令和6年度（2024年度）は改修工事による利用時間の制限のため大幅に減少しています。

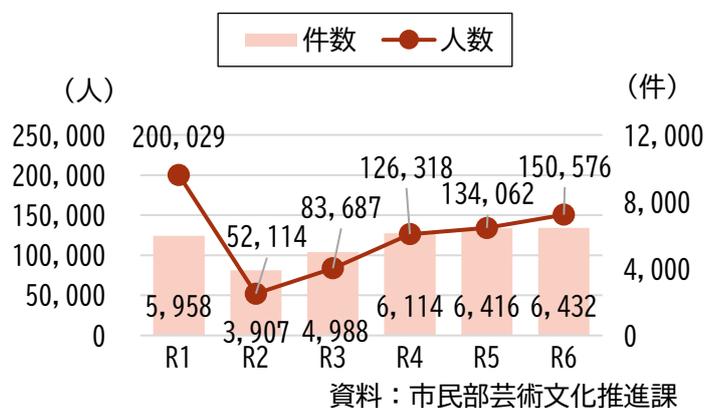
①ノバホール

国内有数の音響効果を持つ音楽ホールである大ホールと小規模な演奏会に対応した小ホールからなり、オーケストラやコンサートなどを始め、映画、演劇等の鑑賞会や市民オーケストラ、市民劇団の発表等、地域の芸術・文化活動の拠点として利用されています。



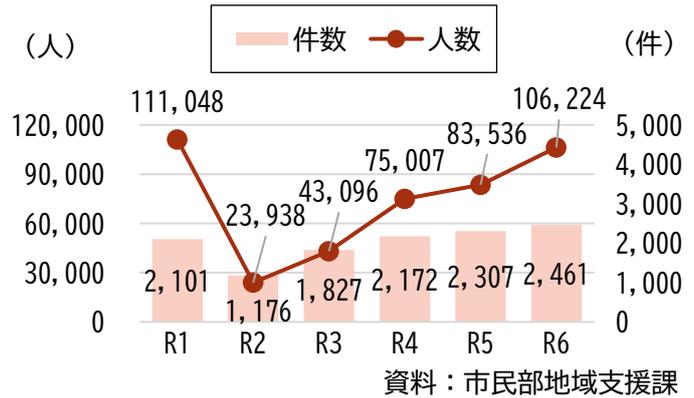
②つくばカピオ

各種室内スポーツや集会などの多目的な利用のためのアリーナ、演劇利用を主目的とした劇場、その他文化関係の諸室によって構成されており、幅広い市民のニーズに対応した施設となっています。



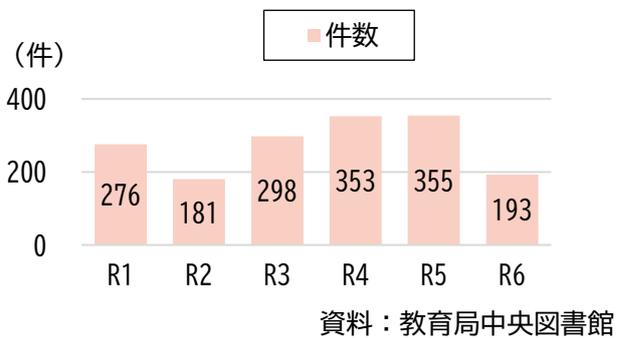
③市民ホール

つくば市合併以前に各町村にあった圏民センター内のホールを、引き続き市民の文化と教養の向上を図り、市民福祉に資するため、市民ホールとして4か所（やたべ、くきざき、とよさと、つくばね）に設けています。



④アルスホール

つくば文化会館アルス内に設置された100名収容できる多目的ホールで、音楽会や講演会といった文化芸術活動の場として利用されています。



(3) 図書館

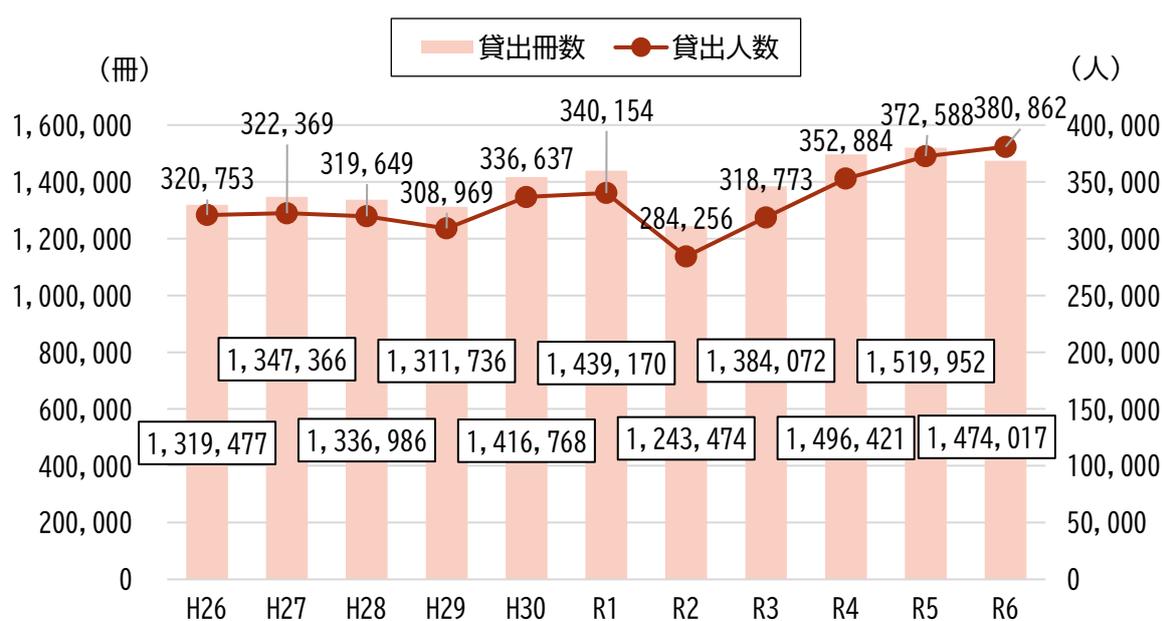
本市では、市民の生涯学習を支援するとともに、文化情報資源を受発信する「知」の拠点として、中央図書館及び4か所の地域交流センター図書室（谷田部・筑波・小野川・荃崎）に加え、土日祝のみ一般利用可能な小学校図書館（研究学園小学校、みどりの南小学校）が設けられています。また、図書の検索や予約、リクエストなどが可能なオンラインサービスも提供しており、各図書施設と連携した一体的な図書館サービスを実施しています。

さらには、いつでもどこでも読書ができる電子図書館サービスや、広い市内にあっても図書館サービスが利用できるよう、小学校や高齢者施設など市内63か所（令和7年度（2025年度）現在）のステーションを巡回する自動車図書館、送付貸出・返却サービスも実施しています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和2年度（2020年度）に大きく減少したものの、翌年からは回復傾向にあり、貸出人数は30万人を超えるペースで推移しています。貸出冊数も同様に140万冊から150万冊程度で推移しています。平成30年度（2018年度）からの開館時間の延長もあり、令和6年度（2024年度）では貸出人数が近年最も多くなっています。

■図書館の利用状況



資料：『統計つくば 2024』

※貸出冊数は交流センター図書室、自動車図書館、学校図書館、電子書籍を含む。

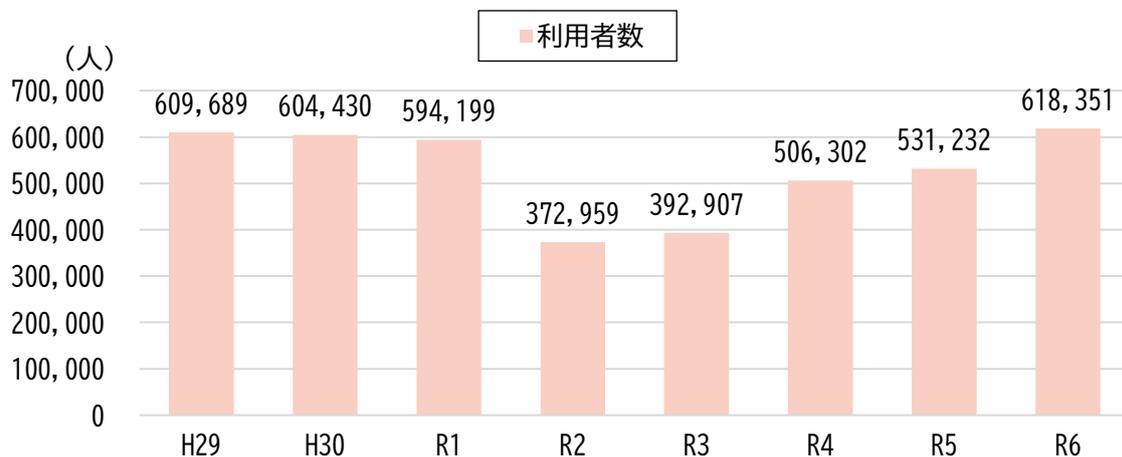
(4) スポーツ関連施設（体育館等）

市内には、多くの市民がスポーツに取り組めるよう、体育館、テニスコート、武道場、野球場やサッカーコートなど、様々なスポーツのニーズに対応した施設を有しています。また、多くのスポーツ施設は、オンラインでの利用予約が可能であり、市民の利便性を高めています。

【利用状況】

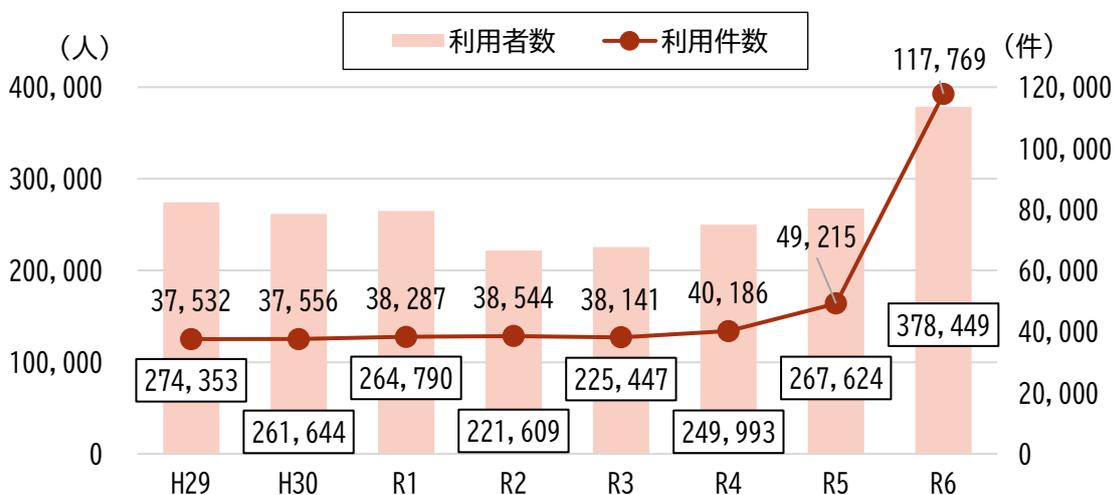
近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年度から3年度（2020年度から2021年度）に大きく利用が減少したものの、翌年からは回復傾向にあります。

■スポーツ施設の利用者数（スポーツ施設課管理 有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

■スポーツ施設の利用者数（公園・施設課管理 有料施設分）



資料：『主要施策の成果及び予算執行の実績報告書』

※流星台スケートボードパークが令和5年4月新設、洞峰公園が令和6年2月に県から市に移管。

(5) 学校開放事業

「つくば市学校開放条例」に基づき、特別教室や体育館といった一部の学校施設を学校教育に支障のない範囲において開放し、市民の利用に供することにより、生涯学習及びスポーツの振興を図ることを目的として、つくば市学校開放事業を実施しています。

【特別教室の利用状況】

令和7年（2025年）3月時点で、小学校3校にある8つの特別教室を、土曜日・日曜日・祝日に貸し出しています。本事業は令和5年（2023年）10月に開始され、令和6年度（2024年度）は63回の利用がありました。

■特別教室

	特別教室
香取台小学校	家庭科室、図工室、音楽室
研究学園小学校	家庭科室、多目的室
みどりの南小学校	家庭科室、音楽室、多目的室

【学校体育施設の開放状況】

学校体育施設については、体育館、武道場、運動場を開放しています。令和7年（2025年）3月時点で、全52校中（廃校2校含む。）49校の体育施設で開放を行っており、多様なスポーツ・レクリエーション活動に利用されています。

■学校体育施設の開放状況（推移） （単位：施設）

	R 3	R 4	R 5	R 6
体育館	45	45	46	49
運動場	32	32	30	29
武道場	12	12	12	13

(6) 文化財関連施設

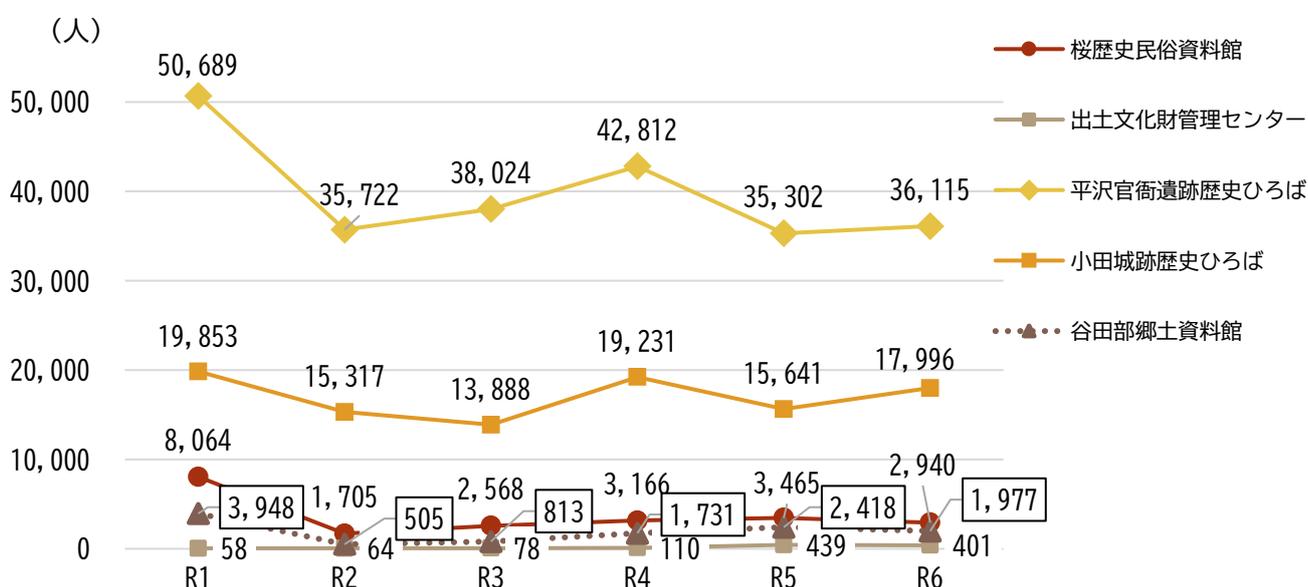
本市には古代の郡役所跡や中世の城館などの歴史的にも貴重な遺跡や、それらの遺跡から出土した土器や地域の文化財を展示する施設が市内各所にあります。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で令和2年度（2020年度）に大きく減少し、翌年からは増減はありますが概ね回復傾向にあります。

なお、出土文化財管理センターに関しては、令和6年度（2024年度）にはコロナ以前よりも高い利用状況となっています。

■各文化財関連施設の利用状況推移



資料:教育局中央図書館

※平沢官衙遺跡歴史ひろばは、令和5年度から令和8年度まで再整備工事を実施(一部立入禁止の箇所あり)

①桜歴史民俗資料館

桜地区内にある多数の発掘出土品、民具、古文書等を保存、展示しています。ナウマン象の化石や縄文時代の料理など、貴重で興味深い展示が多数そろっています。

②出土文化財管理センター

市内の遺跡発掘調査による出土品を保管、一部を展示しています。

③平沢官衙遺跡歴史ひろば

平沢官衙遺跡は、古代（奈良・平安時代）の常陸国筑波郡の郡役所跡と想定される遺跡で、昭和55年（1980年）に国の史跡指定を受けました。校倉、土倉、板倉の3棟を復元して古代空間を再現し、案内所を併設しています。

④小田城跡歴史ひろば

小田城跡は、鎌倉から戦国時代まで常陸国南部で最大の勢力を誇った小田氏の居城跡で、昭和10年（1935年）に国の史跡指定を受けました。堀と土塁に囲まれた本丸空間内に池等を復元しており、小田氏と小田城跡について学習できる案内所も設けています。

⑤谷田部郷土資料館

谷田部地区内の文化財を収集し、展示したもので、江戸時代の発明家「飯塚伊賀七」が製作した木製和時計の復元品があります。

(7) その他の生涯学習関連施設

その他、本市では生涯学習に関する取組を各施設で行っています。

【利用状況】

近年の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で利用者数や利用件数が減少していましたが、殆どの施設において令和2年度（2020年度）以降、概ね年々増加し回復傾向にあります。なお、令和6年度（2024年度）の利用者数をみると、さくら民家園、働く婦人の家については、コロナ以前の利用者数を上回っています。

①筑波ふれあいの里

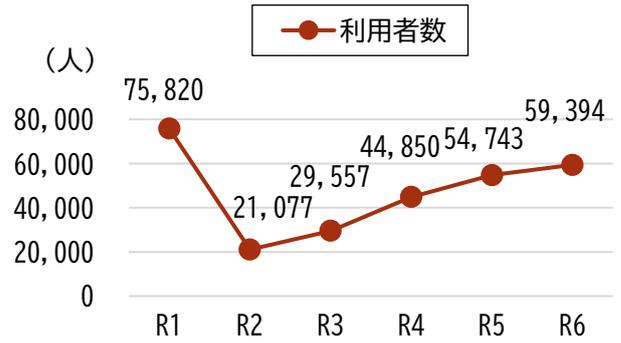
筑波山麓の豊かな自然環境の保全や活用を通じて、学童、都市生活者及び市民等に自然と農業に親しむ機会、憩いの場として設置されています。



資料：経済部筑波ふれあいの里

②豊里ゆかりの森

植物、昆虫、野鳥等とふれあえる豊かな自然環境の中、体験・宿泊余暇活動の施設として、快適な環境を提供することにより、利用者のやすらぎと自然環境保護思想の普及及び向上に寄与することを目的に設置されています。



資料：経済部豊里ゆかりの森

③荃崎こもれび六斗の森

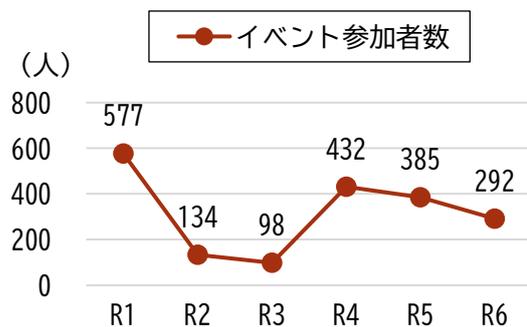
自然とのふれあい及び野外活動の場として、キャンプ場などが整備されています。



資料：経済部荃崎こもれび六斗の森

④高崎自然の森

自然環境の保全と緑の育成を図り、人と自然とのふれあいの場を提供するとともに、自然環境や森林資源を活用した自然環境教育や森づくり体験、農業体験などにより、森林が持つ公益機能の理解や自然環境保全の取組について学ぶことができる施設です。



資料：経済部鳥獣対策・森林保全室

⑤ふれあいプラザ

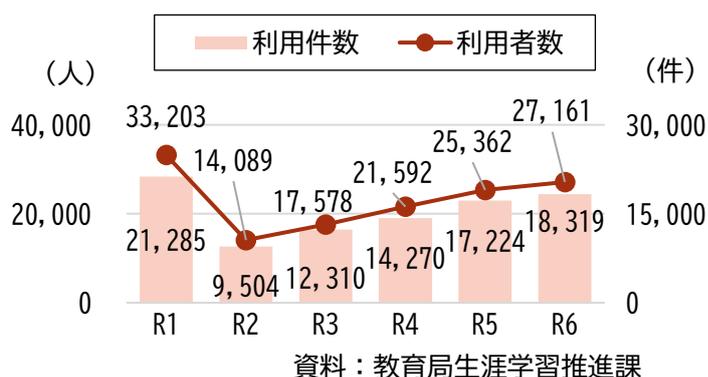
市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現に寄与するために設置されています。



資料：市民部地域支援課

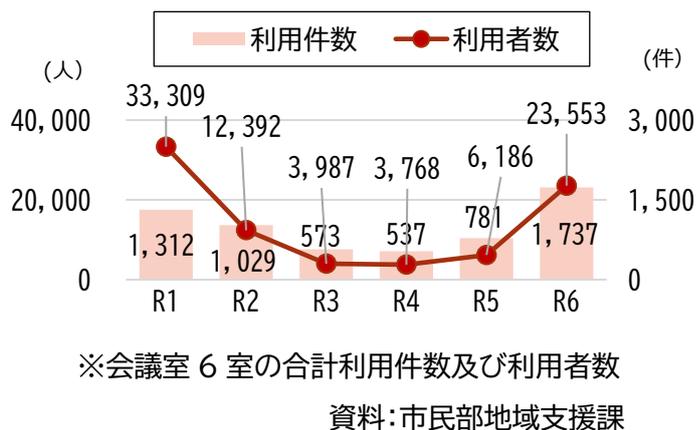
⑥市民研修センター

市民の生涯学習活動や企業研修の場として、幅広い利用に対応できる施設です。



⑦コミュニティ棟 会議室

つくば市役所のコミュニティ棟（1階）は、市民に開放されており、会議室6室、オープンスペース、キッズスペース、図書館の予約本の受取りの利用ができる施設です。



⑧つくば市民センター

市民活動センターと吾妻交流センターを令和6年（2024年）1月に閉館し、同年2月につくば市民センターが開館しました。市民の主体的な活動を支援するとともに、幅広い層の市民が集い交流し、地域に愛着と誇りを持って暮らせる地域社会の形成を図ることを目的とした施設です。市民活動拠点コリドイオ内に設置されています。

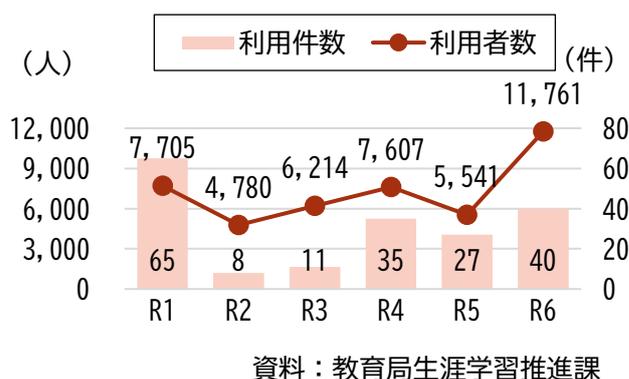


※令和5年度までは市民活動センターと吾妻交流センターの合計。令和6年度はコリドイオ内設置後の利用者数。

資料：市民部つくば市民センター

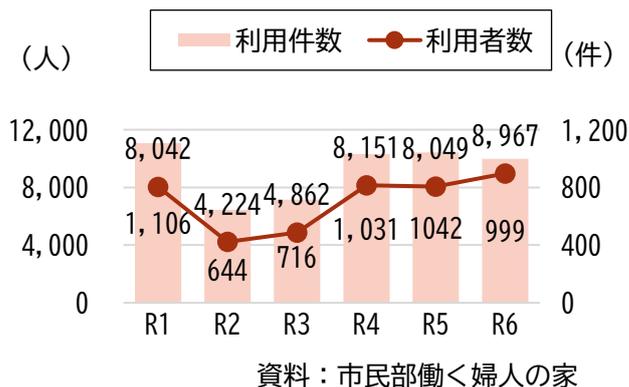
⑨さくら民家園

伝統的古民家を移築し、一般公開しており、市内の学校の授業で活用されています。



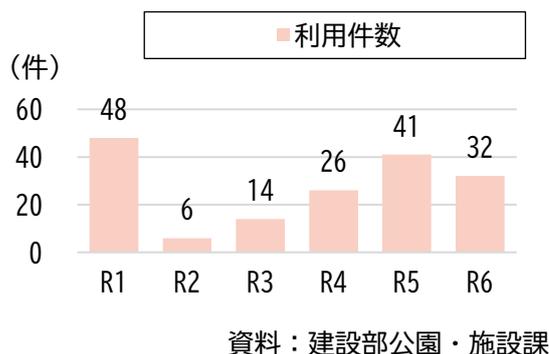
⑩働く婦人の家

勤労者やその家庭の主婦などのほか、これから働くことを希望する女子勤労者のために相談・指導・実習などを行い、知識・教養の向上と休養及びレクリエーションの場を提供しています。前期・後期・冬期に各種講座を開設しています。



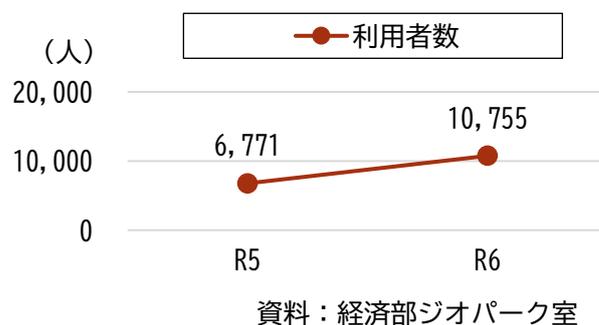
⑪つくば市民ギャラリー

中央公園内にあるレストハウスの一角を利用したギャラリーです。美術を目的とする利用を優先していますが、予約に空きのある場合は、音楽会や各種ワークショップ等、その他の目的でも利用できます。



⑫つくばジオミュージアム

筑波山地域ジオパークの中核となる拠点施設として令和5年(2023年)11月に開設しました。1階展示スペースは、教育や観光振興を目的とした自然や文化を次世代に伝える体験型展示施設となっています。なお、当施設はサイクリング文化を支援する「サイクルパークつくば」との複合施設(筑波山ゲートパーク)となっています。



■施設位置図



■施設位置一覧

No	施設名	住所	No	施設名	住所
地域交流センター			41	ふれあいプラザ	下岩崎 2164-1
1	筑波交流センター	北条 5060	42	市民研修センター	北条 1477-1
2	大穂交流センター	筑穂 1-10-4	43	つくば市民センター	吾妻 1-10-1 コリドイオ内
3	吉沼交流センター	吉沼 790	44	さくら民家園	吾妻 2-7-5
4	豊里交流センター	高野 1197-20	45	働く婦人の家	沼田 40-2
5	谷田部交流センター	谷田部 4774-18	46	つくば市民ギャラリー	吾妻 2-7-5
6	松代交流センター	松代 4-16-3	47	つくばジオミュージアム	北条 4160
7	二の宮交流センター	二の宮 4-6-2	スポーツ関連施設及び公園		
8	春日交流センター	春日 2-36-1	48	筑波総合体育館	北条 1477-1
9	島名交流センター	島名 784-30	49	大穂体育館	筑穂 1-10-4
10	小野川交流センター	館野 477-1	50	吉沼体育館	西高野 821
11	桜交流センター	松塚 1036-2	51	吉沼野球場	
12	栗原交流センター	栗原 5386-2	52	豊里体育館	高野 1197-20
13	竹園交流センター	竹園 3-19-2	53	豊里多目的広場(野球場)	
14	並木交流センター	並木 4-2-1	54	豊里テニスコート	
15	広岡交流センター	下広岡 410-167	55	豊里柔剣道場	今鹿島 4262
16	荃崎交流センター	小荃 318	56	東光台体育館	東光台 5-13-5
ホール			57	谷田部総合体育館	谷田部 4711
17	ノバホール	吾妻 1-10-1	58	谷田部テニスコート	谷田部 5210
18	つくばカピオ	竹園 1-10-1	59	谷田部多目的広場	谷田部 5665
19	市民ホール つくばね	北条 5060	60	谷田部野球場	
20	市民ホール とよさと	高野 1197-20	61	流星台スケートボードパーク	流星台 59
21	市民ホール やたべ	谷田部 4711	62	桜総合体育館	流星台 63
22	市民ホール くさぎさ	小荃 318	63	高見原ソフトボール場	高見原 3-5-1
23	アルスホール	吾妻2-8つくば文化会館アルス内	64	高崎サッカー場	高崎 14-1
図書館・図書室			65	セキショウ・チャレンジスタジアム	山木 1562
24	中央図書館	吾妻2-8つくば文化会館アルス内	66	スポーツフィールド・芝生広場	
25	筑波交流センター図書室	北条 5060	67	大池公園	北条 1477-1
26	谷田部交流センター図書室	谷田部 4774-18	68	筑波北部公園	北原 1
27	小野川交流センター図書室	館野 477-1	69	さくら公園	豊里の杜 2-87-48
28	荃崎交流センター図書室	小荃 318	70	東光台運動公園	東光台 5-1-2
29	研究学園小学校図書室	研究学園 2-26	71	台山公園	緑ヶ原 2-4
30	みどりの南小学校図書室	みどりの南 106-3	72	大崎公園	緑ヶ原 4-5
学校開放事業(特別教室)			73	二の宮公園	二の宮 1-15
31	香取台小学校	島名 1716	74	洞峰公園	二の宮 2-20
29※	研究学園小学校	研究学園 2-26	75	羽成公園	観音台 1-27
30※	みどりの南小学校	みどりの南 106-3	76	かつらぎ公園	春日 2-39-3
文化関連施設			77	手代木公園	松代 5-11
32	桜歴史民俗資料館	流星台 61-1	78	小貝川スポーツ公園	高良田 455-1
33	出土文化財管理センター	平沢 81	79	科学万博記念公園	御幸が丘 6
34	平沢官衙遺跡歴史ひろば	平沢 353	80	桜南スポーツ公園	並木 3-21-2
35	小田城跡歴史ひろば	小田 2377	81	さくら運動公園	金田 1603
36	谷田部郷土資料館	谷田部 4774-18	82	竹園東公園	竹園 3-7
その他の生涯学習関連施設			83	荃崎運動公園	下岩崎 2160-10
37	筑波ふれあいの里	臼井 2090-20	84	ファミリースポーツ公園	菅間 269-1
38	豊里ゆかりの森	遠東 676	85	花畑近隣公園	花畑 3-11-5
39	荃崎こもれび六斗の森	六斗 1002			
40	高崎自然の森	高崎 1078-1			

※は再掲

資料 1-3 市民意向の動向

(1) アンケート

市民の生涯学習の現状、生涯学習に対する考えや要望等を把握し、本計画の策定や施策の推進に役立てることを目的として「つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート」（市民意識アンケート）、「児童生徒 WEB アンケート」（児童生徒アンケート）の2種類の調査を実施しました。

1) 調査概要

調査対象	調査方法	調査期間	回収結果
①市民 (無作為抽出した 18歳以上市民)	郵送/WEB (選択式)	令和6年(2024年) 11月8日~25日 ※12/25 戻分まで反映	配付：3,000 票
			回収：769 票 (紙:451/WEB:318)
			回収率：25.6%
②児童生徒 (5年生、8年生)	WEB	令和6年(2024年) 11月22日~ 12月24日	配付：4,796 票 (5年生 2,637/8年生 2,159)
			回収：3,484 票 (5年生:1,822/8年生:1,662)
			回収率：72.6% (5年生:69.1%/8年生:77.0%)

※「つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート」、「児童生徒 WEB アンケート」の詳細は、調査報告書として市のホームページ（右の二次元コード）にて公開しています。



2) 結果概要

①市民意識アンケート 結果概要

- この1年間で生涯学習に取り組んだ方が6割、今後学びたいと思っている方は8割以上。
- 現在、忙しくて学んでいない方が多く、簡単にできる学習方法が求められている。
- 学びの情報としては「講座・イベント」、「施設」の情報が求められている。
- 学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は4割強にとどまっている。
- 知識を得たり、役に立つことに幸せを感じる方は8割以上と多いが、地域との関わりが広がることに幸せを感じる方については6割とやや少ない。
- 「社会力」を高めるには「交流機会」の創出が重要との意見が多い。
- 世代ごとのニーズに合った講座等を求める意見が多く、高齢世代では成果をいかす場や仕組みづくり等の環境についての意見も多い。

■この1年間の「学び」について

- この1年間で何かを学んだり、技能を高めたりしたことが「ある」方が6割以上となっており、手法は「自宅での学習」が最も多くなっています。
- 学びの成果については、「自分の人生を豊かにしている」や「仕事や就職の上でいかしている」が多くなっています。
- 現在学んでいない方の理由としては、「忙しくて時間がない」が最も多くなっています。
- 忙しくて時間がない方がどうしたら学習意欲がわくかについては、「簡単にできる学習方法があったら」が最も多く、次いで「仕事等に必要な学習内容があったら」となっています。
- 知りたい学びの情報は「催しもの・講座情報」や「利用可能な施設内容や利用方法」が多く、情報入手の手段としては「広報つくば」が5割以上で多くなっています。

■これからの「学び」について

- 今後何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたいと「思う」方が8割以上となっています。
- 若者・大人世代は仕事等に関して、高齢世代は健康に関して学びの意欲が高くなっています。
- 学びたい方法としては、「市が行う講座や講習会」、「自宅での学習活動」が多くなっています。
- 学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと考えている割合は4割強にとどまっています。役立てたいと思わない方の理由については、「自己の楽しみや自主学習が目的だから」が最も多く（約6割）、次いで「自身の知識・技術が未熟だと思ふから」（3割強）となっています。
- 役立てたい方のいかし方については、「個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献」と、「ボランティア活動や地域活動等の実践や指導」が多くなっています。

■日頃の生活や、地域のことについて

- 知識を得たり技能が磨かれることへの充実感（幸せ）を感じている方や、誰かの役に立つことへの満足感（幸せ）を感じている方が8割以上となっています。一方、人や地域と関わり、関係性が広がる・深まることへの充実感（幸せ）を感じている方は6割以上となっています。
- コミュニティ・スクールの取組の認知度は「知らない」が約7割となっています。特に、若者世代で認知度が低くなっています。
- 地域学校協働活動への参加については、「活動内容によっては参加したい」が最も多く、次いで「参加したいが難しい」となっています。（参加意向を示している方は3割以上）。

■つくば市の生涯学習について

- 「社会力」の考え方の認知度は、「言葉も考え方も知っている」、「言葉のみ知っている」方が約4割となっています。特に、大人（働き）世代（の内30代）で認知度が低くなっています。
- 「社会力」を高めるアイデアとして、主に地域や多世代間の「交流機会」の創出、市民が「学ぶ機会」や「成果をいかす機会」を増やすといった意見が多くなっています。
- 本市に力をいれて欲しいと思う取組については、「子育てにいかせる学習機会づくり」と「仕事にいかせる学習機会づくり」が多くなっています。
- 自由意見について、若者・大人（働き）世代（10～50代）では、主に「講座・イベント」、「今後取り組みたいこと」についての意見が多く、特に土日開催の講座等を望む声が多くなっています。子育て世代（乳幼児～小学生までのお子さんを持つ方）では、主に「講座・イベント」、「子育て世代のサポート」についての意見が多く、共通して託児サービスや親子で参加できる

機会を望む声が多くなっています。

高齢者の世代（60～80代）では、主に「今後取り組みたいこと」、「情報発信」、「環境づくり」についての意見が多く、情報発信については、発信方法に工夫を求める意見、環境づくりとしては、つながり・高齢者が外出する機会づくりや、知識・成果をいかす場・仕組みを求める声が多くなっています。

②児童生徒アンケート 結果概要

- 現在授業以外での学びがある児童生徒は7割以上で、学習塾やスポーツ関係の習いごとが多い。
- 今後学びたいもの、地域で教わりたいものについてもスポーツ関係は人気。
- 生徒より児童の方が、つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちという意識がある。
- 児童生徒共に地域とのつながりは比較的良好であり、地域のお祭りなどへの参加が多い。

■授業以外の学び（取組）について

- 授業・部活動以外で学んでいることがある児童生徒は共に7割以上となっています。
- その内容は、児童生徒共に「学習塾」と「スポーツ系の習いごと」が多くなっています。
- これから学びたい・取り組みたい内容としては、児童生徒共に「スポーツや健康に関すること」が最も多くなっています。次いで児童は「工作やDIYに関すること」、生徒は「音楽や美術、書道、映画など芸術活動に関すること」が多くなっています。
- 上記を気軽に学ぶ機会があったら「参加したい」が児童生徒共に8割以上となっています。
- これから学びたい・取り組みたい内容がない児童生徒は約1割おり、その理由は、児童生徒共に「興味がない・面倒くさい」が最も多く、次いで児童は「時間や余裕がない」、生徒は「学びたいことや取り組みたいことがわからない」となっています。
- つくば市は大人になっても学びたいことが学べるまちだと思うかについては、児童は8割以上、生徒は7割が「思う」と回答しています。

■地域のことについて

- 地域の人とよくあいさつしたり、話をしたりするかについては、児童生徒共に7割以上が「思う」と回答しています。
- 地域の行事やボランティアへの参加については、児童生徒共に「地域のお祭り」や、「地域のゴミ拾いや花植えなどの清掃・美化活動」が多くなっています。
- 地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだ経験の有無については、児童生徒共に「教わったり取り組んだことはない・わからない」が最多となっていますが、教わった内容の中では、児童は「自然や環境に関すること」や「スポーツなどに関すること」、生徒は「職業体験に関すること」や「スポーツなどに関すること」が多くなっています。
- 今後地域の人から教わってみたいことや、地域でやってみたいことについては、主に「スポーツなどに関すること」、「伝統芸能・歴史文化に関すること」が多く、内容としては、地域の「スポーツ大会等」へ参加したい、「地域の歴史や伝統」を知りたい児童生徒が多くなっています。

(2) 市民ワークショップ

あらゆる世代の市民から、本市の生涯学習推進に係る現状や課題、今後の方向性に向けた意向を直接的に聴取することを目的に、市民ワークショップを実施しました。本ワークショップを通して、本市の生涯学習の現状と課題を把握します。

1) 実施概要

本ワークショップでは、ウェルビーイングの実現を目指すため、全体テーマを「“学び”を通して人生を幸せに！“学び”の成果をいかして地域を豊かに！」と設定し、各回のテーマごとに、一人ひとりの「学びへの想い」を共有し、現状や課題、理想の学びの姿、学びの成果を地域や社会の課題にいかすことなどについて意見交換を行いました。

全体テーマ：“学び”を通して人生を幸せに！“学び”の成果をいかして地域を豊かに！

回・テーマ	日程	場所	参加者数
第1回 子ども・青少年(大学生)の学び	令和6年(2024年) 11月30日(土)	つくば市役所 203会議室	申込：25名 出席：21名
第2回 大人(子育て世代・社会人)の学び	令和6年(2024年) 12月7日(土)	コリドイオ 大会議室	申込：33名 出席：23名
第3回 高齢者(リタイア後など)の学び	令和6年(2024年) 12月21日(土)	コリドイオ 大会議室	申込：29名 出席：19名

2) 結果概要

第1回 子ども・青少年(大学生)の学び

10歳代～70歳代まで幅広い年代の市民に参加いただき、各年代や所属等の立場からみえる「子ども」の学びについて、多様な御意見をいただきました。



○主な意見○

【現状】大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会(講座・イベント)が豊富

【課題】人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい(時間、アクセス、ハードル、定員)、地域とつながる機会が少ない、情報が手に入らない

⇒【解決のアイデア】ニーズに合ったプログラム、多様な情報発信(見える化)、地域の交流や体験の機会 ※子どもという点では、学校教育との連携も重要

【学びの成果をいかすアイデア】子どもが企画・発表が行える環境づくり

【理想の姿】子どもも大人も共に学び合いながら、子どもたちが主体的に学ぶことができる姿(みんなが学ぶことが重要との意見) ★頻出キーワード【つながる、輝く、みんな、主体的】



第2回 大人（子育て世代・社会人）の学び

子育て関係者や働く世代の方に多く参加いただき、最も多くの参加人数となりました。「大人」の学びについて、活発な御意見をいただきました。

○主な意見○

【現状】 大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（子育て対象、オンライン）が豊富、地域に特色がある（自然、歴史文化財、科学のまち）、交流の場（地域交流センター等）がある

【課題】 人材が上手く活用されていない、機会はあるが参加が難しい（時間、ハードル、子育て中）、生活の中で学びの優先度が低い、人と地域とのつながりが弱い、情報が手に入らない、地域差
⇒ **【解決のアイデア】** 人材活用や育成の仕組み、オンラインの活用やニーズに合ったプログラム、地域の人やロールモデルとの交流機会の創出、身近な学びの場、情報発信の強化（見える化）

【学びの成果をいかすアイデア】 人と人とがつながる機会づくり（マッチングシステム、身近で学び合える場づくり、ロールモデルの活用）

【理想の姿】 楽しく学び、多様な人と関わり合いつなかりをつくり、成長していく（循環・広がる）

★頻出キーワード【つながる、みんな、多世代、成長、わくわく、楽しむ、幸せ、循環】

第3回 高齢者（リタイア後など）の学び

特にリタイア後の高齢世代の方に多く参加いただき、働く世代等の多世代の方と意見を交わしながら、生涯にわたり能動的に学び続ける「高齢者」の学びについて、御意見をいただきました。



○主な意見○

【現状】 大学や研究機関等・団体等が多く人材や学びの機会（講座・イベント）が豊富、土地が広い

【課題】 人材や場（地域交流センター等）が上手く活用されていない、人材についてリタイア前からセカンドライフを支援する仕組みがない、ニーズに合った講座や気軽に体験できる機会がない、高齢男性の外出問題、人とつながる機会が少ない、成果を伝える機会がない、情報が手に入らない
⇒ **【解決のアイデア】** 人材活用の仕組みづくり、交流機会などのつながり・たまり場づくり（医療機関等との連携）、公共施設の役割の見直し・活用、情報の一元化

【学びの成果をいかすアイデア】 スキルを発表できる機会づくり・人と人とがつながる機会づくり（人材活用制度やマイスター制度、サークル活動発表会、ロールモデルの活用、地域交流センターの活用）

【理想の姿】 高齢者が楽しみながら学び、生きがいややりがいを感じて、地域の中で活動する姿

★頻出キーワード【多世代、楽しむ、伝える、成長、元気、いきいき、学び合い】

全体を通した
重要事項
(各テーマ共通)

- 多様な人材を活用するための人材育成及び仕組みづくり
- 学びを通じた交流（つながり）の機会の創出
- ニーズに沿っている・気軽に参加しやすいプログラムづくり
- 情報へのアクセスの向上と魅力ある情報の多様な発信
- 生涯学習関連施設の利便性向上と身近な場所で学べる場づくり
- 学びの成果をいかす機会と環境づくり

資料 1-4 第3次計画における取組状況

(1) 成果指標の達成状況

第3次計画では、計画全般にわたる成果指標及び目標を設定し、各種事業に取り組んできました。目標の達成状況をみると、施策の柱「(1) 多様な学びの実現」と「(2) 誰一人取り残さない生涯学習」において、実績値が目標値を上回り、達成となっています。

成果指標項目	計画時の現況 (令和元年度) (2019年度)	目標値 (令和6年度) (2024年度)	実績値 (令和6年度) (2024年度)	※達成 状況
(1) 多様な学びの実現				
生涯学習に取り組んでみたい人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	78.1%	80.0%	↑ 81.9%	達成
(2) 誰一人取り残さない生涯学習				
実際に学習活動に取り組んだ人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	57.9%	60.0%	↑ 65.0%	達成
(3) 地域で学び合う生涯学習				
地域交流センターの利用者数	506,301人	520,000人	↓ 417,191人	未達 (減少)
(4) 「社会力」を持った人材の育成				
自分の学習成果で社会に貢献したい人の割合 (R6 生涯学習に関する市民意識アンケート)	49.6%	60.0%	↓ 44.1%	未達 (微減)
(5) 計画全体の評価				
市の施策のうち、生涯学習に満足／どちらかといえば満足な人の割合 (R6 つくば市民意識調査)	32.8%	40.0%	↓ 31.3%	未達 (微減)

(2) 各年度評価からみる計画の取組状況

第3次計画では毎年度、各担当課による個別事業の評価（事務事業評価）と施策の方向性ごとの全体評価を行い、進行管理を図るとともに、その評価の妥当性を「生涯学習推進本部」及び「生涯学習審議会」において審議しています。

なお、令和4年度（2022年度）から評価方法の基準が変更となったため、主に令和4年度（2022年度）～令和6年度（2024年度）の3か年の評価から計画の取組状況を確認します。

1) 事務事業評価（各担当課評価）

令和4年度（2022年度）からは事業の実施状況と、事業の個別指標の達成状況の2つの観点から評価を行い、その評価を組み合わせる事務事業評価の総合評価を行っています。

各年度における総合評価は次表のとおりで、全体34事業の評価を実施しています。令和6年度（2024年度）まで、多くの事業は総合評価Aとなっており、Sの事業も増えていることから、全庁的に生涯学習の取組を着実に実施できていることがうかがえます。

	事業数（全34事業）						
	S	A	B	C	D	E	—
令和4年度（2022年度）	7	15	10	1	1	0	0
令和5年度（2023年度）	8	15	8	2	1	0	0
令和6年度（2024年度）	8	16	6	4	0	0	0

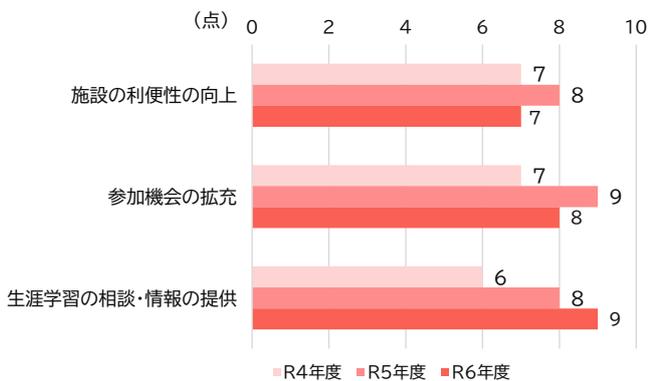
2) 全体評価（施策の方向性ごとの評価）

全体評価は事務事業の総合評価を点数化し、施策の方向性ごとに平均をとって評価を行っています。（10点満点）

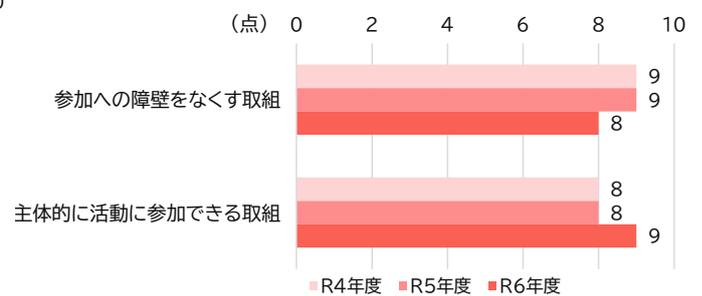
全体評価の推移をみると、概ねの施策の方向性で評価が安定しており、特に、施策の柱「（1）多様な学びの実現」の「生涯学習の相談・情報の提供」で毎年評価が向上しています。一方、「（4）「社会力」を持った人材の育成」の「実践できる人材の育成」では毎年評価が低下しています。

■全体評価の推移

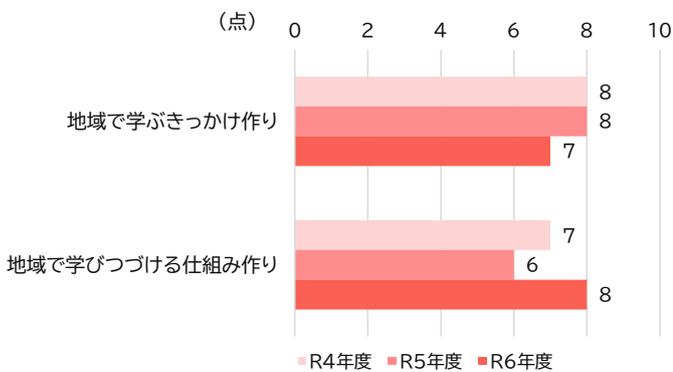
（1）多様な学びの実現



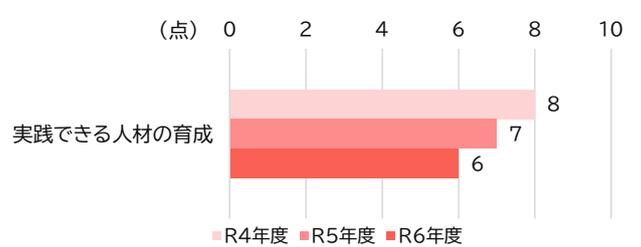
（2）誰一人取り残さない生涯学習



（3）地域で学び合う生涯学習



（4）「社会力」を持った人材の育成



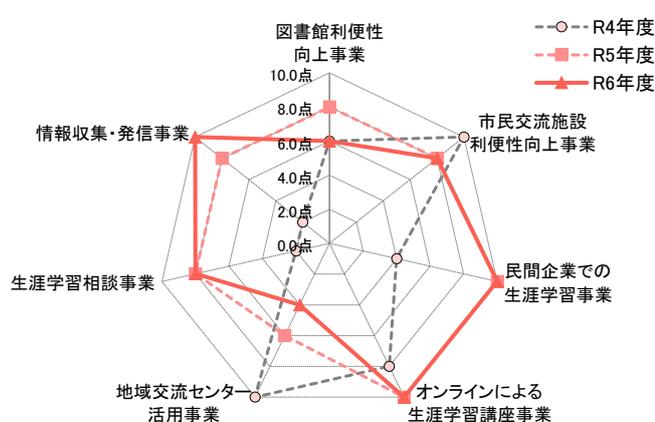
個別事業ごとの評価の推移をみると、特に「(1) 多様な学びの実現」の「民間企業での生涯学習事業」、「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と「(2) 誰一人取り残さない生涯学習」の「障害者スポーツ推進事業」、「(3) 地域で学び合う生涯学習」の「地域交流センター講座等事業」で評価が向上傾向にあります。

その一方で、特に「(1) 多様な学びの実現」の「地域交流センター活用事業」と「(3) 地域で学び合う生涯学習」の「スポーツ教室事業」、「(4) 「社会力」を持った人材の育成」の「地区リーダー勉強会事業」で評価が低下傾向にあります。

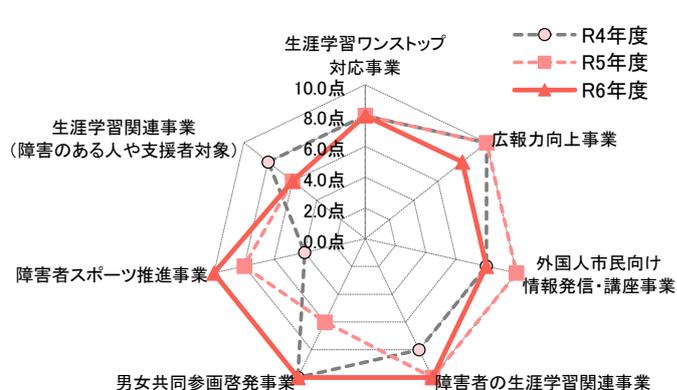
また、施策の柱ごとに位置づけられる事業数に偏りがみられます。

■個別事業ごとの評価の推移

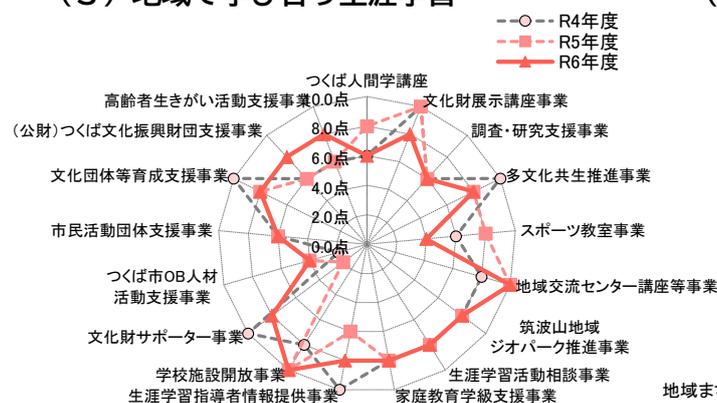
(1) 多様な学びの実現



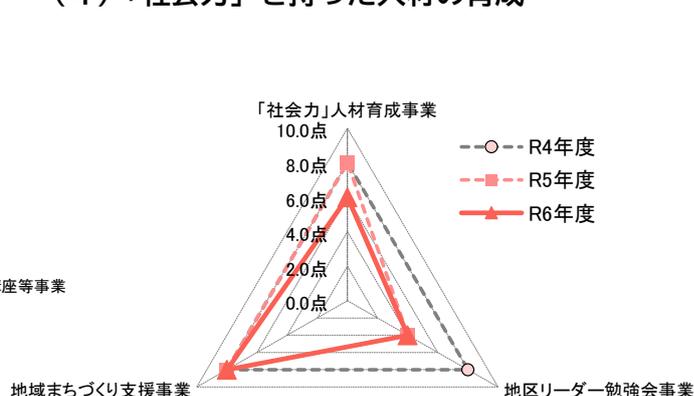
(2) 誰一人取り残さない生涯学習



(3) 地域で学び合う生涯学習



(4) 「社会力」を持った人材の育成



3) 第3次計画の取組状況のまとめ

全体評価でみると一定の成果が上げられており、特に自らの学びを推進する施策については評価が高くなっています。一方で、「(4) 「社会力」を持った人材の育成」といった、学びの力をいかす施策について評価が低いものもあることや、「(3) 「社会力」を持った人材の育成」では個別事業ごとの評価が極端なものもみられます。

2 策定経過及び策定組織に関する資料

資料 2-1 計画策定の経過

◆令和6年度

年月日	事項
令和6年(2024年) 8月21日	令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会 ・(仮称)第4次つくば市生涯学習推進基本計画についての諮問 ・第4次計画策定の考え方について協議
9月30日	令和6年度第2回つくば市生涯学習審議会 ・令和6年度第1回審議会の議論のまとめと計画の構成について ・市民アンケート、市民ワークショップの実施について協議
11月8日～ 11月25日	・つくば市生涯学習に関する市民意識アンケート (対象:市内在住の16歳以上の市民 3,000人)
11月22日～ 12月24日	・児童生徒WEBアンケート (対象:市内の小学校5年生・中学校2年生・義務教育学校5年生・8年生(特別支援含む) 4,796人)
11月30日	市民ワークショップ(第1回) テーマ:子ども・青少年(大学生)の学び
12月7日	市民ワークショップ(第2回) テーマ:大人(子育て世代・社会人)の学び
12月21日	市民ワークショップ(第3回) テーマ:高齢者(リタイア後など)の学び
令和7年(2025年) 3月24日	令和6年度第3回つくば市生涯学習審議会 ・アンケート、ワークショップ結果の報告 ・計画骨子案について協議

◆令和7年度

年月日	事項
令和7年(2025年) 6月27日	令和7年度第1回つくば市生涯学習審議会 ・修正骨子案について協議
8月26日	令和7年度第2回つくば市生涯学習審議会 ・基本理念、施策の展開、未来への取組、つくばの学びの未来像 について協議
9月10日～ 9月18日	書面での御意見募集 ・第2回つくば市生涯学習審議会の協議結果を受けての修正内容について御意見募集
10月27日	令和7年度第3回つくば市生涯学習審議会 ・計画名称、計画書本文、成果指標について協議
12月8日～ 令和8年(2026年) 1月7日	パブリックコメントの実施
2月13日	令和7年度第4回つくば市生涯学習審議会 ・パブリックコメントの実施結果報告 ・第4次計画の答申案について協議・決定
2月24日	答申書手交式



資料 2-2 つくば市生涯学習審議会条例

平成 5 年 6 月 25 日

条例第 25 号

(設置)

第 1 条 市民が自己を高めるため、生涯にわたり社会のあらゆる領域で自発的、自主的に行う学習活動（以下「生涯学習」という。）の振興に関する施策を総合的に進めるため、つくば市生涯学習審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。

- (1) 生涯学習を振興するための施策の総合的な推進に関する事項
- (2) その他生涯学習の推進に必要な事項

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 25 人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 各種団体等の代表者
- (3) 学識経験者
- (4) 市内に在住し、在勤し、又は在学する者

(平 9 条例 43・平 30 条例 29・一部改正)

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

3 前条第 2 項第 1 号又は第 2 号に規定する者で当該職又は地位により委員に任命されたものが当該職又は地位を離れたときは、委員の職を失うものとする。

(平 9 条例 43・一部改正)

(会長及び副会長)

第 5 条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(平 9 条例 43・一部改正)

(会議)

第6条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 審議会に、専門の事項を調査するため、必要に応じて部会を置くことができる。

2 前項の部会の委員は、審議会の委員のうちから審議会が選任する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成9年条例第43号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成30年条例第29号）

この条例は、公布の日から施行する。

資料 2-3 つくば市生涯学習審議会委員名簿

任期：令和6年（2024年）8月1日～令和8年（2026年）7月31日

任期中に役職の変更があった場合は（前職／現職）と表記している。

No.	氏名	委嘱区分	所属団体等	備考
1	こもりや さやか 小森谷 さやか	市議会議員	つくば市議会	副会長
2	いしつか かずお 石塚 一夫	団体代表	つくば市シルバークラブ連合会会長	
3	いしはら あやこ 石原 亜矢子	団体代表	つくば市学校長会（つくば市立要小学校校長）	
4	ごとう まき 後藤 真紀	団体代表	つくば市福祉団体等連絡協議会会長	
5	すずき あかり 鈴木 朱里	団体代表	特定非営利活動法人ままとーん代表理事	
6	たなか ひでお 田中 秀夫	団体代表	つくば市文化協会会長	
7	なかじま おさむ 中嶋 修	団体代表	青少年を育てるつくば市民の会会長／副会長	
8	ながはし しんや 長橋 進也	団体代表	つくば市 PTA 連絡協議会顧問	
9	はぎわら たけひさ 萩原 武久	団体代表	つくば市スポーツ協会会長	
10	やまざき せいじ 山崎 誠治	団体代表	つくば市ボランティア連絡協議会世話人代表 ／推進チーム チーム長	
11	たけだ なおき 武田 直樹	学識経験者	特定非営利活動法人 フュージョン社会力創造パートナーズ理事長	会長
12	みぞうえ ちえこ 溝上 智恵子	学識経験者	国土舘大学特任教授	
13	いしかわ ゆみこ 石川 由美子	市民委員	市民委員	
14	くろさき ひろし 黒崎 博	市民委員	市民委員	
15	たなか よりこ 田中 依子	市民委員	市民委員	
16	ふくい まさと 福井 正人	市民委員	市民委員	

（敬称略）

第4次つくば市生涯学習推進基本計画
編集・発行 つくば市 教育局 生涯学習推進課
〒305-8555
茨城県つくば市研究学園一丁目 1 番地 1
TEL:029-883-1111(代表)

